

資産運用会社の実務を身につける

2026年 秋季日程

日経ビジネススクール

# ファンドマネジメント講座

<新規講座>

## 債券ポートフォリオマネジメント実践演習

グローバル債券・為替取引の模擬トレード演習を通じて戦略立案から執行までの実務プロセスを体得

<リニューアル>

## デジタルマネーとデジタル証券がもたらす ファンド業務革新

資産運用のファンド業務を再構築するデジタル証券・デジタルマネーの最新潮流を解説

<人気講座> <秋季限定企画>

## 外国籍投信関連業務

### <実務・応用編>

外国籍投信の実務に焦点を当て、導入から応用、  
具体事例や運用実務まで幅広く解説

Zoomでのオンライン受講



日経ビジネススクール  
NIKKEI BUSINESS SCHOOL

# 資産運用会社の実務を身につける ファンドマネジメント講座

- アセットマネジメント会社(投信・投資顧問会社)を中心とした資産運用ビジネスの実務全般について学ぶ講座です。
- 年4回(四半期ごと)の定期開講なので、ご自身の長期スケジュールに沿って受講できます。
- 網羅的に理解したい方、専門実務をピンポイントでスキルアップしたい方、双方のニーズに応えます。

※このご案内は2026年4月1日時点での予定です。日程・講師・内容等は都合により変更させていただきます。ご了承ください。  
※ファンドマネジメント講座はオリジナルテキストを使用します。テキスト代は受講料に含まれます。

## ファンドマネジメント総合基礎

8/25(火) P5

受講料(税込) 48,400円

アセットマネジメント会社の主要部門の基本業務と必要な基礎知識を1日で学ぶ講座です。各ビジネスラインの役割や連携、オペレーションプロセスの全体像を理解できます。実務経験の浅い方向けですが、経験者の復習や投資運用関連業界の方の導入としても最適です。全体像の把握や各論受講前の基礎固めに役立ちます。

10:00～12:00 資産運用業界の概観と資産運用業務 — フロント業務を中心として	120分	出水 和村 工藤
12:00～13:00 コンプライアンス業務の基礎と概観	60分	
13:50～15:20 バックオフィス業務の基礎と概観	90分	
15:30～17:00 ミドルオフィス業務の基礎と概観	90分	

出水 里香



野村アセットマネジメント  
人事部長

和村 雅義



エクسسネット  
シニアコンサルタント

工藤 協一



パーテックス・インベストメント・  
ソリューションズ  
常務取締役 リスク管理・  
コンプライアンス部長

## ミドルオフィス業務

8/26(水) P6

受講料(税込) 48,400円

資産運用会社はパフォーマンスがすべてといっても過言ではありません。本講義は運用評価業務、主に定量評価について学びます。リターンとその要因分析、およびリスクについての基本概念を把握したうえで、プロが実際に行っているパフォーマンス測定の実務を、さまざまな計算事例に沿って、ひとつひとつ丁寧に、詳しく解説します。

10:00～11:30 運用評価に必要な基礎知識: リスクリターンから要因分析まで	90分	右田
11:30～13:00 パフォーマンス測定の実務I: 残高・取引明細表/キャッシュフローによる収益の調整/GIPS準拠、他	90分	
14:00～15:30 パフォーマンス測定の実務II: 日次厳密法と修正ディーツ法、複合効果/要因分析の誤差項/プレアデス累積方式、他	90分	
15:30～17:00 パフォーマンス測定の実務III: 個別銘柄別寄与度/多段階要因分析/オルタナティブ運用の要因分析、他	90分	

## 注目講座 リサーチ・アナリスト業務 <企業価値分析基礎編>

8/28(金) P7

受講料(税込) 48,400円

アナリストは、マーケットや資産クラスを分析し、投資家やファンドマネージャーの意思決定をサポートします。主な業務には財務分析、企業訪問、ポートフォリオ分析などがあります。企業価値分析の重要性が高まる中、本講義では決算書や財務分析の基礎知識、企業インタビュー手順、業績予想、企業価値評価手法を体系的に学びます。演習を通じて、アナリストが企業の想定株価を算定するまでの知識とノウハウを網羅的に解説します。

10:00～11:30 アナリストの業務・財務分析の基礎知識: リサーチ・アナリスト業務/適切な企業価値分析/企業価値の定量的評価/財務諸表・指標と分析手法、他	90分	三浦
11:30～13:00 業績予想の基礎知識: 業績予想作成/経済指標・マーケットデータ・業界動向・データベースの活用/マクロ分析/業績予想に影響を与えるファクター、他	90分	
14:00～15:15 企業インタビュー・企業価値評価の基礎知識: IR資料の読み方/決算説明会/質問事項の作り方/目標株価の算定手法/シナリオ別分析、他	75分	
15:15～16:00 企業レポート作成の基礎知識: 株式のレーティング/カタルスト/キラーコンテンツ、他	45分	
16:00～17:00 演習	60分	

三浦 毅司



元 クレディ・スイス証券 株式調査本部  
株式調査部 ヴァイス・プレジデント/  
日本知財総合研究所  
代表取締役CEO

## 資産運用システム構築戦略

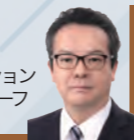
9/1(火) P8

受講料(税込) 48,400円

資産運用業界では、グローバル化と高度化が進展し、IT(情報技術)との関係がますます密接になっています。各部門で多様なITが活用される中、全社的なIT環境を把握し、現状からの転換を図ることは、経営上の重要課題です。本講義では、IT環境の刷新に着目し、資産運用会社のシステム全体像、ITの実装及びIT戦略の立案におけるポイントを解説します。IT業務に携わる方はもちろん、経営層にとっても有益な内容です。

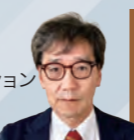
10:00～11:30 資産運用システムの全体構成概略とバックオフィス・システム: 運用実績の記録と管理/基本データ構成/インターネットからクラウドへ/外部データ交換、他	90分	横山
11:30～13:00 フロントオフィス・システムとオルタナティブ資産への対応: 伝統的資産のフロントオフィス・システム/IBOR/ABOR視点の変化がもたらすシステム構造の変化、他	90分	
14:00～15:30 ミドルオフィス・システムと運用成果データの管理: 運用成果の分析と表明・報告/EUCとデータ・ウェアハウス/モダン・データ・ハブへの発展	90分	内田
15:30～17:00 IT業務と資産運用システムの実装計画: IT業務の概要/データ・マネジメント業務/システムライフサイクルとシステムの実装計画	90分	横山

横山 陽一



野村総合研究所  
資産運用ソリューション  
事業本部 シニアチーフ  
エキスパート

内田 昌孝



野村総合研究所  
資産運用ソリューション  
事業本部  
シニア・マイスター

## 半日講座 リーガル&コンプライアンス <基本スキル編>

9/2(水) P9

受講料(税込) 33,000円

資産運用立国が掲げられている今、資産運用会社が直面する複雑な法規制、高度化する運用手法、多様化する投資対象資産に対応するためのリーガルおよびコンプライアンスの基本スキルを解説します。法令遵守だけでなく、社会的・道徳的責任も果たすための高度なガバナンス・コンプライアンス態勢の構築に必要な法理論やリスクコントロールの基礎を学び、リーガル&コンプライアンス・オフィサーとしての能力向上を目指します。

13:00～15:20 リーガルの基本スキル: 法規制の構成と特徴/違反した場合の影響/資産運用業に適用される法令/代表的な義務/資産運用業者の法務部の実務	140分	小野
15:20～17:00 コンプライアンスの基本スキル: 受託者責任の基本/コンプライアンスの基礎・態勢/近年、企業に求められるコンプライアンス/最新の論点/リーガル・コンプラに関わる最新のトピックス	100分	

小野 高央



弁護士/  
アセットマネジメントOne  
執行役員 リスク管理本部  
副本部長

## ポートフォリオマネジメント業務

9/3(木) P10

受講料(税込) 48,400円

講師は、みずほフィナンシャルグループの資産運用会社で30年近く運用部門に勤務し、現在は販売会社の商品選定部門で活躍しています。運用会社での経験と外部からの視点を活かし、差別化を重視したポートフォリオマネジメントを解説します。内容は、資産運用会社の現状、必要なプロダクト、株式アクティブ運用の実例、為替とデリバティブの活用について、わかりやすく説明します。

10:00～11:30 資産運用業界の現状と運用の基礎知識: 業界の現状と今後の見通し/商品の基礎知識/取扱商品の概要 — メリット、デメリット、批判	90分	柏原
11:30～13:00 どのようなプロダクトが必要なのか: 家計の資産運用の現状と定着しない理由/運用会社の課題と変化/有望なプロダクト/差別化の源泉	90分	
14:00～15:30 株式アクティブ運用を例として: 運用スタイル、哲学、プロダクトの差別化/意思決定プロセスの確立/運用スタイル/成長性・バリュエーション分析、他	90分	
15:30～17:00 為替とデリバティブの利用: プロダクト理解のための理論(為替編)/プロダクト理解のための理論(デリバティブ編)	90分	

柏原 延行



丸三証券 常務執行役員  
投資信託部長  
チーフ・グローバル・  
ストラテジスト

## トレーディング業務

9/4(金) P11

受講料(税込) 48,400円

資産運用会社のトレーディング業務を日系大手セールサイド・外資系を含むバイサイド双方の経験を有する実務家が、実務プロセスに沿って執行・規制・内部統制等を横断解説。最良執行義務の本質、執行コスト分析、HFTやPTS拡大、電子取引高度化等の環境変化を整理し、国内外の株式、債券、為替取引や短期資金運用の留意点を網羅。ブローカー評価や執行コンプライアンス、社内牽制の実務対応も扱い高度な実務判断力を養成します。

10:00～11:30 バイサイドトレーディングの概要: 基本イメージ/業務の流れとミッション/執行環境の高度化と内外金融法制・規制見直し、他	90分	西野
11:30～13:00 エグゼクティブトレーディング実務: 取引・執行方法の種類/電子取引の活用事例/代替執行市場/外国株式取引の実務、他	90分	
14:00～15:00 債券・外国為替、トレーディング、及び短期資金運用実務: 取引概略/国内債券取引/外国債券取引/外国為替取引/短期資金取引	60分	
15:00～17:00 執行コンプライアンスとトレーディング関連事項: グローバル潮流の変化/執行コンプライアンス関連/ブローカー選定・評価/システム・インフラ、他	120分	

西野 俊介



セゾン投信 上級顧問  
運用管理等担当

## 外国籍投信関連業務 <実務・応用編>

秋季限定企画

9/9(水) P12

受講料(税込) 48,400円

外国籍投信の実務・応用編では、国内私募・公募用ファンドやファンド・オブ・ファンズの投資対象としての重要性を踏まえ、実務上の重要ポイントや課題に焦点を当てます。主要設立地の基本スキーム概略、ルクセンブルグ籍ファンドの業務、メリット・デメリット、トラブル事例、モニタリング手法を解説し、現場で使える知識の習得を目指します。対象は流動性の高い資産に投資する公募外投と公募のファンド・オブ・ファンズです。

09:45～11:30 基本スキームの確認/留意点: 主要スキームの概略/特徴/関係法人の役割/責任/国内投信との違い	105分	長岡
11:30～13:10 商品企画実務: 選別基準、設立地の検討プロセス/オペレーション留意点/FoF's/私募投信/規制、制度上の留意点	100分	
14:10～15:50 設定・募集実務: 商品概要確認シートの作成/金融当局への申請実務/募集、マーケティングの際の留意事項/FoF's	100分	
15:50～17:30 フォローアップの実務: 設定後の開示業務/オペレーション上の留意点/モニタリング手法/DD/UCITS/将来への課題	100分	

長岡 弘寿



元 ピクテ・ジャパン  
プロダクト・  
マネジメント部長

## 実務で使われる金融工学の基礎

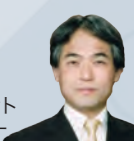
9/10(木) P13

受講料(税込) 48,400円

金融工学・ファイナンス理論は運用業務の基礎ですが、難解と思われがちです。本講義では、基礎から実践までのロードマップを示し、エクセルのデモで直感的に理解できるように解説します。特にマルチファクターモデルについて、本格的な学習用モデルを通じ、動作原理から利用方法に到るまで詳細に紹介いたします。

10:00～11:00 金融工学への導入としての確率・統計: リターンの確率分布とリスクの関係/リスクの推定方法/相関係数と回帰分析	60分	外尾
11:00～13:00 ファイナンス理論と実務の接点: ポートフォリオ理論/アクティブ(ウェイト・リターン・リスク)/トラッキングエラーの推定	120分	
14:00～16:30 ファクターモデルの活用: ファクターモデルとは/シングルファクターモデル/ベータの求め方/マルチファクターモデルの詳細	150分	
16:30～17:00 アルファの獲得とクオンツ運用: アノマリーのアルファへの変換/クオンツファンド/ポートフォリオ最適化/データインフラ構築	30分	

外尾 光法



マネックス・  
アセットマネジメント  
シニアアドバイザー

## バックオフィス業務 <投信編>

9/11(金) P14

受講料(税込) 48,400円

投資信託の管理業務を体系的に学びます。オペレーション全体を把握し、(1) 約定・受渡しに関する業務 (2) 基準価額の計算に関する業務 (3) 決算に関する業務 (4) 追加・解約に関する業務を理解します。さらに、業界の課題を明確化し、「ごんべんけいり」と呼ばれる独特な計理仕訳などグローバルな視点からも紹介します。

10:00～12:00 投資信託のしくみと委託者の役割: ファンドの形態と関係法人/日々の業務の流れ、他..... 120分  
 13:00～15:00 計理仕訳: (基準価額の計算、株式約定、債券約定、外国投資勘定、追加・解約約定)+ミニ演習... 120分  
 15:00～16:30 決算関連業務(分配原資の計算)、外国投信を組入れたファンド・オブ・ファンズの留意点..... 90分  
 16:30～17:00 投信業界の今後の課題: 金融庁指導と市場動向、基準価額の一元化、資産運用立国の実現に向けて、他..... 30分

東中川

東中川 教明

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント  
 ファンド・コントローラーズ部長



## 債券ポートフォリオマネジメント実践演習

新規講座

9/14(月) P15

受講料(税込) 48,400円

### — グローバル債券・為替の模擬トレード演習

本講義は、グローバル債券・為替取引の模擬トレード演習を通じて、戦略立案から執行までの実務プロセスの理解と習得を目的としています。債券ポートフォリオマネジメントの基礎や市場・為替取引の仕組み、運用戦略の基本を整理したうえで、Excelによる演習を実施し、トレード案の立案から執行までを実践的に学びます。現役の運用担当者のフィードバックにより、判断力と運用スキルの向上を図ります。

10:00～11:30 債券ポートフォリオマネジメントの基礎知識/実務に必要な債券の基礎知識/債券・為替取引とポートフォリオ管理/債券運用戦略..... 90分  
 11:30～13:00 債券ポートフォリオマネジメントを体験する①/実践演習問題の準備/実践演習問題(基本編)... 90分  
 14:00～17:00 債券ポートフォリオマネジメントを体験する②/実践演習問題(実践編)/複数ポートフォリオの取り扱い/ポートフォリオの構築/債券ポートフォリオ戦略の立案と実行/緊急のポートフォリオ調整/その他実践演習..... 180分

横谷  
 山下

横谷 宏史

ピクテ・ジャパン  
 執行役員  
 商品本部長



山下 文音

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ  
 債券ポートフォリオ・マネージャー



## デジタルマネーとデジタル証券がもたらす ファンド業務革新 — イノベーションの本質に着目して

リニューアル 半日講座

9/15(火) P16

受講料(税込) 27,500円

2008年にビットコインの基盤技術として誕生した分散台帳技術は、近年デジタル証券へ応用され、資産運用のバリューチェーンに変革をもたらしています。本講義では、過去の業務革新の事例を振り返りつつ、分散台帳技術の最新動向と本質を紹介し、デジタル証券やデジタルマネーのバリューチェーンを解説いたします。

13:00～14:10 イノベーションとは何か: 業務革新の歴史とイノベーションの定義/事例でたどるイノベーションステップ..... 70分  
 14:10～15:40 資産運用業界における分散台帳技術の活用事例: デジタルマネーの概要/イノベーションステップによる解説..... 90分  
 15:40～16:00 ファンド運用業者が持つべき変化を見極める目: これまでのまとめ/3つの提言/質疑応答..... 20分

葵木

葵木 慎吾

日本証券金融  
 リスク管理部  
 副部長



## オルタナティブ投資・ プライベート・エクイティ・ファンド

9/16(水) P17

受講料(税込) 48,400円

プライベート・エクイティは、低金利環境と株式相関の高まりを背景に注目されるオルタナティブ投資の一つです。未公開株式投資でありながら、従来の株式投資の延長線上にあるこのアセットクラスの特徴や魅力は十分に理解されていません。本講義では、基礎知識や仕組みの説明に加え、実務経験に基づく具体例、最近の市場動向、将来の可能性について解説します。

10:00～12:00 プライベート・エクイティに関する基本知識: プライベート・エクイティの定義/PEファンドの特徴/様々なPE投資戦略..... 120分  
 12:00～13:00 プライベート・エクイティ・ファンドの仕組み: リーガル・ストラクチャー/基本的な投資条件/年金基金が投資を行う仕組み..... 60分  
 14:00～16:00 投資実務: 形態の違い/投資方針策定とポートフォリオ構築/デュアリティ/デリジェンス/モニタリングとリスク管理/事務フロー..... 120分  
 16:00～17:00 プライベート・エクイティ市場の将来像: 国内VC概観/セカンダリー投資/EMP..... 60分

佐村

佐村 礼二郎

イー・アイ・キャピタル  
 代表取締役社長



## <初級中級編>投資信託約款の読み込み方

講義時間拡大

9/18(金) P18

受講料(税込) 48,400円

— 約款の逐条解説により、法的根拠や制度的背景など投資信託を体系的に学ぶ —

投資信託約款は、投資信託の根幹ともいえるものですが、難解な法律文書であるうえに体系的に学ぶ機会も少なく、どうしても敬遠されがちです。初中級編では、この苦手意識を軽減することを目指し、基本を確実に押さえたいという、実際の約款条文をポイントを絞って読み込んでいきます。実務上よくある疑問に答えるような形でかみ砕いて解説し、受講者の方々に納得し腹落ちしていただけるような講義内容となっています。

09:45～11:30 約款を読み込むための基本知識: 投信約款とは何か/株式投信と公社債投信/証券投資信託/有価証券、他..... 105分  
 11:30～13:00 約款本文からポイント学ぶI: 事務委託/信託金/期間/勧誘/NAVの計算/受益権分割/受益権の帰属と譲渡、他..... 90分  
 14:00～15:30 約款本文からポイント学ぶII: 運用指図の範囲/投資制限/混蔵寄託/信託財産登記/資金借入と立替/計算期間、他..... 90分  
 15:30～17:10 約款本文からポイント学ぶIII: 信託報酬総額/収益分配/質権口記載/解約/約款変更/反対受益者/運報/公告、他..... 100分

宮園

宮園 喜明

元 三井住友信託銀行  
 受託業務推進部  
 投信受託課  
 主任調査役



## オルタナティブ投資・ヘッジファンド

秋季限定企画

9/24(木) P19

受講料(税込) 48,400円

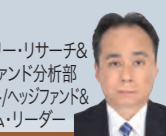
株式や債券等による伝統的運用(ロングオンリー)とは相関の低いオルタナティブ投資に注目が集まっております。本講義では、実務担当者の経験に基づき実例を交えながら、ヘッジファンドの基礎知識と現状を踏まえた上で、ヘッジファンドの投資実務について解説します。また、ヘッジファンド業界の直近のトレンドや将来性についても解説します。

10:00～12:00 ヘッジファンドとは: 定義と特徴/伝統的運用との違い/ヘッジファンド戦略/パフォーマンス/投資意義と注意点..... 120分  
 12:00～13:00 ヘッジファンド投資の動向: 主要投資家の動向(内外年金、米国大学基金等)/投資スキーム(主要関係者)/運用報酬..... 60分  
 14:00～16:00 ヘッジファンド投資の実務: プロセス/ファンド評価(運用面、オペレーション面)/ポートフォリオ構築/モニタリング..... 120分  
 16:00～17:00 ヘッジファンド投資の今後: 透明性・流動性・運用報酬(リキッド・オルタナティブ)/規制/将来..... 60分

向井

向井 康晴

野村フィデューシャリー・リサーチ&  
 コンサルティング ファンド分析部  
 シニア・ファンドアナリスト/ヘッジファンド&  
 マルチアセットチーム・リーダー



## バックオフィス業務 <投資顧問・投資一任編>

9/28(月) P20

受講料(税込) 48,400円

資産運用会社のバックオフィス業務は、フロント業務に比べて紹介される機会が少ないですが、組織内で非常に重要な役割を果たしています。本講義では、投資一任業における管理業務を体系的に学び、ファンド管理やデータ利用の実態、信託報告書との照合作業などを詳しく解説します。実務者だけでなく、システムソリューション担当者にも有益な内容です。

10:00～12:00 バックオフィス業務の概観とファンド管理の実務: ファンド属性設定と銘柄属性設定/ファンド管理の日次・月次業務の流れ、法定帳簿等の電子化、他..... 120分  
 12:00～13:00 約定処理と株式議決権行使の実際: 約定処理(国内資産)/約定処理(海外資産)/為替紐付/株式の議決権行使..... 60分  
 14:00～15:30 ブッキングと信託報告書との照合手順: ファンドの報告概要/ファンドの照合実務/決算処理/データ・ブッキングの方法..... 90分  
 15:30～17:00 ディスクロージャー資料と運用報告の実際: 運用報告書の種類/運用報告の目的/法定書面/運用報告の実際/投資顧問料業務..... 90分

和村

和村 雅義

エクسسネット  
 シニアコンサルタント



## インパクト投資(インパクトファイナンス)の実務

注目講座

9/30(水) P21

受講料(税込) 48,400円

近年、環境・社会課題の解決と投資リターンの両立を目指す「インパクト投資」への関心が高まっています。金融庁による基本指針の公表や「インパクトコンソーシアム」の設立など、国内でも制度整備が進む一方、実務の現場では試行錯誤が続いています。本講義では、ベンチャーキャピタル、上場株式、デットファイナンスなど多様な領域で活躍する実務家がリレー講義形式で登壇し、最前線の知見と実践事例を体系的に学びます。

10:00～10:40 インパクト投資総論: インパクトの概念/金融庁指針/ESGとの違い/市場動向/投資家の貢献とIMM..... 40分  
 10:45～11:25 インパクト投資の国際動向及びIMM各種枠組み動向: グローバル市場の潮流/国際的枠組みの整理/ホットトピックの紹介と質疑応答... 40分  
 11:30～12:10 ベンチャーキャピタルにおける実践: ファンド設計と測定/インパクトDDと投資管理/IPOと責任ある出口戦略..... 40分  
 12:15～12:55 上場株式における実践: 市場での位置付け/インパクトを組み込んだ投資判断/エンゲージメント/インパクトの計測と管理..... 40分  
 14:00～14:40 インパクトと企業価値: 統合思考による経営/情報開示の潮流/株価とインパクトの定量化/可視化の課題..... 40分  
 14:45～15:25 デットにおける実践: 融資・債券の構造/エンゲージメントの論点/運用体制と人材育成/最新事例と展望..... 40分  
 15:30～16:10 アセットオーナーにおける実践①: 機関投資家としての役割/サステナブル投資・インパクト投資の推進意義/インパクト投資の実践..... 40分  
 16:15～16:55 アセットオーナーにおける実践②: インパクト投資の多様性の意義/インパクトファースト事例/JANPIAの実践と学び..... 40分

林  
 須藤  
 高塚  
 清水  
 太田  
 橋爪  
 小林  
 小崎

林 寿和

ニッセイアセットマネジメント  
 サステナブル投資  
 リサーチヘッド  
 専門部長



須藤 奈広

Director, Impact Frontiers  
 Senior Advisor,  
 Global Impact  
 Investing Network



高塚 清佳

インパクト・キャピタル  
 代表取締役



清水 裕

カディラキャピタル  
 マネジメント  
 取締役  
 チーフインベストメント



太田 洋子

野村證券  
 金融工学研究センター長  
 マネージング・ディレクター



橋爪 麻紀子

日本総合研究所  
 創発戦略センター  
 シニアマネージャー



小林 巧

かんぼ生命  
 運用企画部  
 責任投資推進室  
 課長



小崎 亜依子

日本民間公益活動  
 連携機構  
 出資事業部 部長



# ファンドマネジメント総合基礎

8/25 火

講師	Session 1 & 2: 出水 里香 野村アセットマネジメント 人事部長
	Session 3: 和村 雅義 エックスネット シニアコンサルタント
	Session 4: 工藤 協一 パーテックス・インベストメント・ソリューションズ 常務取締役 リスク管理・コンプライアンス部長

初心者向けに、アセットマネジメント会社の組織構造から、年金資金や投資信託のスキームまで、業界の全体像を包括的に解説します。運用会社、販売会社、投資家の関係性を説明し、資産運用のビジネスモデルの概観を解説いたします。

## Session 1 資産運用業界の概観と資産運用業務 — フロント業務を中心として 10:00 ~ 12:00 (120分)

1. 資産運用とは — 自分で投資するか、プロに任せるか	⇒ 投資信託ビジネスにおける営業	⇒ バックオフィス業務に求められるもの
2. 資産運用業界の概観	・フロント業務 (運用)	・コンプライアンス業務
・投資顧問ビジネスとは	⇒ 資産運用の Plan-Do-See	⇒ コンプライアンス (ブレーキ)
— オーダーメイド型資産運用	⇒ リサーチ	⇒ 法務 (アクセル)
・投資信託ビジネスとは	⇒ ポートフォリオマネジメント	⇒ 内部監査
— レディメイド型資産運用	⇒ トレーディング	
・資産運用にかかわる法令諸規則	・ミドル業務	4. 資産運用会社にとってのシステム
3. プロフェッショナルとしての資産運用とは	⇒ リスク分析	・フロント用/ミドルオフィス用/ バックオフィス用/コンプライアンス用
・フロント業務 (営業)	⇒ パフォーマンス分析/リスク・リターン の総合評価	・STP (Straight Through Processing)
⇒ 投資顧問ビジネスにおける営業	・バックオフィス業務	5. 資産運用会社の社会的位置づけ

## Session 2 コンプライアンス業務の基礎と概観 12:00 ~ 13:00 (60分)

1. 総論：資産運用会社のコンプライアンスとは — 法令遵守?	・コンプライアンス態勢	⇒ 当局によるモニタリング
2. フィデュシャリー・デューティ (受託者責任)	— 体制と態勢の違い	— 金融商品取引業者等のあるべき姿
3. 各論：コンプライアンス業務の実際	・コンプライアンス部の各業務へのかかわり方	
・コンプライアンス体制	⇒ フロント業務 (営業) とのかかわり	
— コンプライアンス部だけがコンプライアンス業務を行っているわけではない	⇒ フロント業務 (運用) とのかかわり	
	⇒ ミドル業務とのかかわり	
	⇒ バックオフィス業務とのかかわり	
	⇒ 全般的な業務	

## Session 3 バックオフィス業務の基礎と概観 13:50 ~ 15:20 (90分)

1. バックオフィス業務の全体像	⇒ 社外向け報告、営業用資料の元データ
・バックオフィスの業務項目	⇒ 社内管理の基礎データ
・投資信託の業務サイクルと業務項目	
・投資顧問の業務サイクルと業務項目	
・役割分担とリーガル・ストラクチャー	
・外国籍/国内籍投信比較	
・投資信託と投資顧問のビジネスの範囲比較	
2. データプロセッシング	
・約定フローと約定データ項目	
・データの作成プロセスとサイクル	
・データ蓄積の目的	
⇒ 運用	
⇒ モニタリング	
⇒ 受託銀行の計理データと照合	
3. 運用報告書	
・投資信託報告書の種類	
・投資顧問報告書の種類	

## Session 4 ミドルオフィス業務の基礎と概観 15:30 ~ 17:00 (90分)

1. 運用哲学と運用プロセス	・パフォーマンスの計測ルール	7. リスク管理
2. 資産運用会社におけるミドルオフィス業務	・ユニバース (ピアグループ) 比較	・資産運用会社における各リスクの定義
・ミドルオフィス業務の位置づけと主要業務	・スタイル分析/執行コスト分析	・市場リスク管理の方法
3. パフォーマンス評価の目的	・ヘッジファンド等で使用されるリスク測定	・リスク量管理
・運用委託者・運用受託者、それぞれの立場での違い	5. パフォーマンスの要因分析	8. リスク考慮後のパフォーマンス分析
・パフォーマンス評価に求められる要件	・プリンソン要因分析理論	・代表的なリスク考慮後のリターンの尺度
4. 定量評価	— 要因分解が成立する理由	9. ミドルオフィス業務の課題
・定量評価の方法	6. パフォーマンスの定性評価	
・相対リターン (対ベンチマーク)	・運用委託者の視点と資産運用会社5つの“P”の視点	

# ミドルオフィス業務

8/26 水

講師	全セッション: 右田 徹 元 イボットソン・アソシエイツ・ジャパン データ管理部長
----	---

資産運用ビジネスにおいて必須となる定量評価の知識を基礎から応用まで学ぶ講義です。リスクやリターンの測定、パフォーマンスの要因分析を中心に、具体的な計算方法をエクセルファイルで提供し、受講後の復習を支援します。ビギナー向けにはポートフォリオのリスク・リターン計算や運用パフォーマンスの分析方法を解説し、専門的なリスク指標の利用や実務上の留意点も含めて学びます。本講義は、資産運用に必要な知識を体系的に身につけることができる内容となっています。

## Session 1 運用評価に必要な基礎知識 10:00 ~ 11:30 (90分)

1. リターン	2. 要因分析	3. リスク
・収益率 (リターン) の計算	・対ベンチマーク比較	・リターンとリスクのトレード・オフ
— 収益と収益率の違い	— 絶対収益率と相対収益率の違い	— 高リスク銘柄と低リスク銘柄の違い
・収益の実現部分と未実現部分	・ポートフォリオの業種別構成	・分散投資によるリスク低減
— 実現損益とトータル・リターンの違い	— ポートフォリオの評価と業種別評価の違い	— 集中投資と分散投資の違い
・収益率の幾何リターン	・超過収益率の要因分解	・リスクの計算
— 単利と複利の違い	— 業種配分効果と銘柄選択効果の違い	— 絶対リスクとトラッキング・エラーの違い
・投資金額の変化と収益率	・個別銘柄寄与度	・リターンとリスクの総合評価
— 時間加重収益率と金額加重収益率の違い	— 銘柄寄与度と業種内銘柄寄与度の違い	— 超過収益率による評価とIRによる評価の違い
・コンポジット収益率	・運用プロセスによる測定方法の違い	
— 収益率の単純平均と加重平均の違い	— ボトムアップ法とトップダウン法の違い	

## Session 2 パフォーマンス測定の実務 I 11:30 ~ 13:00 (90分)

1. 貸残高・取引明細表からリターン計算まで	a. 日次厳密法	・日次厳密法リターンの計算式
・月次貸借対照表と月次損益計算書/運用実績表	b. 複利内部収益率リンク法	— キャッシュフロー発生のみなし方によって計算パターンはさまざまに
・時間加重収益率計算明細書/現金残高表	c. 複利内部収益率リンク簡便法	・買い始めと売り切り時のリターン
・各計算数値例とポイント解説	d. 修正ディーツ法	— 買い始め、売り切り時の双方に対応できる計算方法とは
2. パフォーマンス要因分析の実務 I	e. ディーツ法	
・リターン計算におけるキャッシュフロー	・グローバル投資パフォーマンス基準 (GIPS)	
・キャッシュフローによる収益の調整	— GIPS の理念と準拠/主な必須基準	
— キャッシュフローの立て方 (事例解説)	・日次厳密法リターン	
・時間加重収益率の種類と計算式	— 理論上のリターンと実務上の比較/測定に最適な計算方法とは何か	

## Session 3 パフォーマンス測定の実務 II 14:00 ~ 15:30 (90分)

1. パフォーマンス要因分析の実務 II	・超過リターン	a. ポートフォリオ誤差 — ポートフォリオ誤差を小さくするには
・日次厳密法リターンと時価評価	— 対ベンチマーク超過リターンを算術的でなく幾何的に計算する利点	b. ベンチマーク誤差 — ベンチマーク誤差を小さくするには
— 不正確な時価評価によってリターンがゆがむ具体例	・プリンソン要因分析理論の基礎	c. リンク誤差 — 2期間におけるリンク誤差の比較例
・日次厳密法と修正ディーツ法の比較	— Brinson-Fachler モデルの計算式と要因分解が成立する理由	d. プレアデス累積方式 — プレアデス累積方式のメリットと理論的な意味
— 修正ディーツ法リターンの特徴とゆがみの例	・複合効果	・個別銘柄寄与度
・コンポジット・リターン	— 要因分析表における複合効果の表示方法	— 株式ポートフォリオでの測定例
— 途中解約などで1年間を通して存在しなかったファンドのリターン算出法	・要因分析の誤差項	
	— 要因分析の誤差の理由は必ず説明できる	

## Session 4 パフォーマンス測定の実務 III 15:30 ~ 17:00 (90分)

1. パフォーマンス要因分析の実務 III	・オルタナティブ運用等の要因分析	・実績トラッキング・エラーの計算方法
・複数セクターによる要因分析	— さまざまな運用スタイルにおけるリターンを要因分解	— 平均2乗誤差と標準偏差、それぞれの利点と数値例
— セクター切り口のの違いによる銘柄選択効果の意味の違い	— どのような運用スタイルであっても、要因分析ロジックを構築するための頭の働かせ方はただひとつ	・インフォメーション・レシオ
・複数セクターによる多段階要因分析	・リターンとリスクの総合評価	— 数値例と評価方法について
— サブ・セクター構成比の正規化と国内債券の要因分析における例	— リターンとリスクの総合評価	・インフォメーション・レシオの計算方法
・要因分析における構成比の正規化	— リスク調整後リターンとは	— 計算方法の違いと問題点、t検定との関係
— ベンチマーク構成比の正規化と正規化を行わない場合の数値例	・標準偏差とシャープ・レシオ	・負のシャープ・レシオとインフォメーション・レシオ
・オフバランスを含む運用の要因分析	— シャープ・レシオの計算方法	— 評価方法におけるさまざまな考え方
— オフバランスを用いた場合と用いなかった場合で効果の違い	・トラッキング・エラー	
	— 推定トラッキング・エラーと実績トラッキング・エラー	

# リサーチ・アナリスト業務 ＜企業価値分析基礎編＞

注目講座 8/28 金

講師 全セッション：三浦 毅司 元 クレディ・スイス証券 株式調査本部 株式調査部 ヴァイス・プレジデント/日本知財総合研究所 代表取締役 CEO

アナリストの企業分析業務を体系的に学ぶ機会を提供します。決算書や財務分析の基礎知識から始まり、企業インタビューの手順、業績予想、企業価値評価の基本的手法を学習します。各セッションでは、リサーチ・アナリスト業務、適切な企業価値分析、財務諸表・指標の分析手法、業績予想作成、経済指標・マーケットデータの活用、IR資料の読み方、目標株価の算定手法、株式のレーティングなどを扱います。講義は座学だけでなく、実践的な演習も含まれており、アナリスト業務の多岐にわたる側面を包括的に学ぶことができます。

## Session 1 アナリストの業務・財務分析の基礎知識 10:00～11:30 (90分)

- |  |  |  |
|--|--|--|
| <p><b>1. アナリストの業務</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチ・アナリスト業務とは</li> <li>・重要性を増す、適切な企業価値分析</li> <li>・企業価値評価を定量的に行うためには？</li> </ul> <p><b>2. 財務分析の基礎知識</b></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・財務諸表の読み方</li> <li>・財務指標の基礎知識</li> <li>・財務分析の基本的な手法</li> </ul> <p>a. 過去との比較<br/>b. 同業他社との比較</p> | <p>c. その数値になる背景の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財務指標に影響を与えるファクター</li> <li>・その他、留意点</li> </ul> |
|--|--|--|

## Session 2 業績予想の基礎知識 11:30～13:00 (90分)

- |  |  |   |
|--|--|---|
| <p><b>1. 業績予想作成の基礎知識</b></p> <p><b>2. 業績予想作成のための情報収集</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種経済指標の見方</li> <li>・マーケットデータの読み方</li> <li>・業界動向・競合分析</li> <li>・データベースの活用</li> </ul> | <p><b>3. マクロ分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・景気予想</li> <li>・金利・為替予想</li> <li>・業績予想に影響を与えるファクター</li> </ul> <p><b>4. ミクロ分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業基盤</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営戦略</li> <li>・無形資産戦略</li> </ul> <p><b>5. 業績予想の限界</b></p> <p><b>6. 予想PL、予想BS、予想CF計算書の作り方 (概論)</b></p> |
|--|--|---|

## Session 3 企業インタビュー・企業価値評価の基礎知識 14:00～15:15 (75分)

- |  |  |  |
|--|--|--|
| <p><b>1. 企業インタビューの基礎知識</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IR資料の読み方</li> <li>・決算説明会</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問事項の作り方</li> <li>・企業インタビューの基礎知識</li> </ul> <p><b>2. 企業価値評価の基礎知識</b></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標株価の算定手法</li> <li>・シナリオ別分析</li> <li>・テクニカル分析</li> </ul> |
|--|--|--|

## Session 4 企業レポート作成の基礎知識 15:15～16:00 (45分)

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <p><b>1. レポート作成の実務</b></p> <p><b>2. 株式のレーティング</b></p> | <p><b>3. カタリスト</b></p> <p><b>4. キラーコンテンツ</b></p> | <p><b>5. 予想財務諸表</b></p> <p><b>6. 損益分岐点分析</b></p> |
|---|--|--|

## Session 5 演習 16:00～17:00 (60分)

- 1. 予想PL、予想BS、予想CF計算書の作り方**      **2. 演習(青山商事 vs AOKIホールディングス)**



# 資産運用システム構築戦略

9/1 火

講師 Session 1: 横山 陽一 野村総合研究所 資産運用ソリューション事業本部 シニアチーフエキスパート  
Session 2 & 3: 内田 昌孝 野村総合研究所 資産運用ソリューション事業本部 シニア・マイスター  
Session 4: 横山 陽一 野村総合研究所 資産運用ソリューション事業本部 シニアチーフエキスパート

資産運用システムの構築戦略に焦点を当てた包括的なプログラムです。4つのセッションを通じて、資産運用業界のシステム基盤の全体像を学ぶことができます。

## Session 1 資産運用システムの全体構成概略とバックオフィス・システム 10:00～11:30 (90分)

- 現在資産運用業界で使われている標準的なシステム機能の配置・構成や、そこで取り扱う基本的なデータの構造を概観し、その中で最も古くからシステム化されてきたバックオフィス・システムについて、成り立ちから今後の変化の方向性について解説します。
- |  |   |   |
|--|---|---|
| <p><b>1. バックオフィス・システム — 運用実績の記録と管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理内容と役割</li> <li>・位置づけ</li> <li>・主な機能内容</li> <li>・投資信託と投資顧問の違い</li> <li>・欧米と日本の業務フォーマーションの違い</li> <li>・日本におけるNAVの1者計算の議論</li> </ul> <p><b>2. 資産運用の基本データ構成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資産運用システムにおける標準的なデータ・スキーマ (例)</li> <li>・ファンド・口座・ポートフォリオ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・取引データの管理項目と役割</li> <li>・残高データの管理項目と役割</li> <li>・取引データと残高データの関係/取引・残高から導出されるデータ</li> </ul> <p><b>3. インターネットからクラウドへ — システム環境の変化がもたらす業務プロセスの変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資産運用システムに変化をもたらす要因</li> <li>・クラウド・サービスとは？</li> <li>・データ連携手段の近代化と業務改革</li> <li>・業務プロセスの共有</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運用業界に起こり続けるオペレーションの変化 (まとめ)</li> </ul> <p><b>4. 外部とのデータ交換</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位置づけ</li> <li>・ネットワークを用いたSTP</li> <li>・主な外部ネットワーク</li> <li>・(補論) 社外システムとのデータ接続における留意点</li> </ul> <p><b>5. マーケット情報の管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位置づけ</li> <li>・データの種類と利用方法</li> <li>・(補論) マーケット・データのコスト問題</li> </ul> |
|--|---|---|

## Session 2 フロントオフィス・システムとオルタナティブ資産への対応 11:30～13:00 (90分)

- 伝統的資産の運用執行をサポートするフロントオフィス・システムの役割と機能・データ構成を概観し、そのベースとなるポジションの管理視点の変化について解説します。また、伝統的資産と異なるオルタナティブ資産の管理のための機能について解説します。
- |   |   |  |
|---|---|--|
| <p><b>1. 伝統的資産のフロントオフィス・システム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位置づけ 案件作成から執行・その確認</li> <li>・機能構成図</li> <li>・機能概要とシステムの効果</li> <li>・システム化の効果</li> <li>・機能イメージ</li> <li>・求められる要件</li> <li>・フロントオフィス・システムのデータ範囲</li> <li>・フロント・ミドル・バックの必要データの違い</li> </ul> | <p><b>2. IBOR/ABOR 視点の変化がもたらすシステム構造の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IBOR/ABORとは</li> <li>・資産運用システムの管理データ範囲の変化</li> <li>・バックオフィス・システムの本来の役割と現状</li> <li>・近年のシステム構成</li> <li>・アカウンティング・レス・バックオフィス</li> <li>・IBOR導入による業務フローの変化</li> <li>・IBORに関する共通認識の必要性</li> <li>・機関投資家の意識変化</li> </ul> | <p><b>3. オルタナティブ投資の拡大がもたらす必要機能の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オルタナティブ投資について</li> <li>・オルタナティブ投資のフロント・オフィス機能</li> <li>・位置づけ 運用対象の発掘と絞り込み</li> <li>・オルタナティブ投資のフロント・オフィス機能 概要</li> <li>・オルタナティブ投資のバック・ミドル・オフィス機能</li> <li>・伝統的資産と異なるプロセスの管理</li> <li>・伝統的資産と異なるデータ管理</li> </ul> |
|---|---|--|

## Session 3 ミドルオフィス・システムと運用成果データの管理 14:00～15:30 (90分)

- 運用成果情報の管理と分析を行うミドルオフィス・システムの機能構成を概観し、運用成果をはじめとした各種データの管理について、EUC(エンド・ユーザ・コンピューティング)やDWH(データ・ウェアハウス)に着目して解説します。
- |   |   |   |
|---|---|---|
| <p><b>1. ミドルオフィス・システム — 運用成果の分析と表明・報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位置づけ</li> <li>・機能構成</li> <li>・機能概要</li> <li>・求められる要件</li> </ul> <p><b>2. EUCとデータ・ウェアハウス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資産運用におけるEUCの位置づけ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹システムからEUCへのデータ開放</li> <li>・EUCによる業務プロセス構築時の留意点</li> <li>・データ・ウェアハウスを中核としたEUC環境の整備</li> <li>・ユーザ・インターフェースの工夫</li> <li>・データ内容の理解度の向上策</li> <li>・データ構造の工夫</li> </ul> <p><b>3. モダン・データ・ハブへの発展</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業を超えた運用成果データの共有</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ連携環境の活用</li> </ul> <p><b>&lt;補足&gt; 他業態の資産運用システム構成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資産管理会社</li> <li>・機関投資家(プラン・スポンサーなど — 委託運用を中心とした構成)</li> <li>・機関投資家(生損保など — インハウス運用をメインとした構成)</li> </ul> |
|---|---|---|

## Session 4 IT業務と資産運用システムの実装計画 15:30～17:00 (90分)

- 最初に、ITセクションの担う「情報管理」業務の概要についてご説明します。また、システム投資の時期とバランス、アウトソーシングとシステム化の比較等、システム投資に関して考慮すべきポイントを挙げて解説します。
- |   |  |  |
|---|--|--|
| <p><b>1. IT業務の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの構成要素</li> <li>・調達手段の変化</li> <li>・クラウド・サービスの範囲</li> <li>・IT部門の定常的な主要業務 (例)</li> <li>・システムの定常的な稼働 ①障害対策</li> <li>・システムの定常的な稼働 ②災害対策</li> <li>・(参考) テレワークを支えるITの仕組み</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の脅威からの防御</li> <li>・老朽化対策 ITモダナイゼーション</li> <li>・IT人材の不足</li> </ul> <p><b>2. データ・マネジメント業務</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・ウェアハウスの陳腐化問題</li> <li>・データ・マネジメント組織 (DMO) の必要性</li> <li>・DMOの業務を支えるデータ・ウェアハウスの機能</li> </ul> <p><b>3. AIの活用</b></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI活用レベル</li> <li>・米国のAMへの活用状況のヒヤリングより</li> <li>・活用事例</li> </ul> <p><b>4. システムライフサイクルとシステムの実装計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの導入目的の明確化</li> <li>・IT化しない選択肢 — アウトソーシング</li> <li>・システム刷新と人材育成</li> </ul> |
|---|--|--|

# リーガル&コンプライアンス ＜基本スキル編＞

半日講座 9/2 水

講師 全セッション：小野 高央 弁護士/アセットマネジメントOne 執行役員 リスク管理本部 副本部長

資産運用業務におけるリーガル&コンプライアンスの基本スキルを習得するプログラムです。経験豊富な講師が、多様なバックグラウンドを持つ受講者を対象に、法律の基本原則から最新の論点まで丁寧に解説いたします。2つのセッションで構成される4時間の集中講座となり、投資運用業に関する法規制の基本から最新の論点まで、幅広いトピックをカバーします。

## Session 1 リーガルの基本スキル 13:00～15:20(140分)

- |  |  |
|--|--|
| <p><b>1. 法規制の構成と特徴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>投資運用業に係る法規制の構成と範囲</li> <li>業者に適用される主要法令</li> <li>顧客に適用される主要法令</li> <li>法令理解のための基礎             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 法律・政令(施行令)・省令(施行規則)</li> <li>⇒ 公法と私法</li> <li>⇒ 法概念の相対性</li> <li>⇒ 特別法と一般法</li> <li>⇒ 強行法規と任意法規</li> </ul> </li> <li>法令以外の理解のための基礎             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 監督指針、協会自主規制ルール、等</li> </ul> </li> </ul> <p><b>2. 違反した場合の影響</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>違反した場合はどうなるか</li> </ul> <p><b>3. 資産運用業者に適用される法令</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>投資運用業</li> <li>投資助言・代理業</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>第二種金融商品取引業</li> </ul> <p><b>4. 代表的な義務</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>善管注意義務             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 注意義務とは</li> <li>⇒ 民法上の善管注意義務、会社法上の善管注意義務、金商法上の善管注意義務、慎重な専門家の注意</li> </ul> </li> <li>忠実義務             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 忠実義務とは</li> <li>⇒ 忠実義務の理解                 <ul style="list-style-type: none"> <li>— 善管注意義務との関係</li> </ul> </li> <li>⇒ 投信約款と忠実義務</li> <li>⇒ 投信における約款の法的性質</li> </ul> </li> <li>再信託</li> <li>カストディアン</li> <li>説明責任             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 説明責任とは</li> <li>⇒ ヴィークルによる相違</li> </ul> </li> </ul> <p><b>5. 資産運用業者の法務部の実務</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>業務範囲の確認</li> <li>防衛法務と戦略法務</li> <li>顧問弁護士との付き合い方</li> <li>社内弁護士の活用</li> <li>予算管理</li> <li>Legal Tech</li> </ul> |
|--|--|

## Session 2 コンプライアンスの基本スキル 15:20～17:00(100分)

- |  |  |
|--|--|
| <p><b>1. 受託者責任の基本</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受託者責任とは</li> <li>なぜ受託者責任が生じるのか?             <ul style="list-style-type: none"> <li>— 発生のメカニズムが分かれば対処も分かる</li> </ul> </li> <li>⇒ 金融商品取引業者等における受託者責任</li> <li>分別管理</li> <li>兼業規制</li> <li>自己執行義務</li> <li>開示の目的と効果             <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 民法上の報告義務                 <ul style="list-style-type: none"> <li>— 受任者による報告</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 依存度と開示の関係</li> </ul> <p><b>2. コンプライアンスの基礎</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンスとは何か             <ul style="list-style-type: none"> <li>— 狭義のコンプライアンスと広義のコンプライアンス</li> </ul> </li> <li>コンプライアンスに係る環境変化</li> </ul> <p><b>3. コンプライアンス態勢</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>態勢構築の目的</li> <li>態勢構築の手順(一例)</li> <li>連携体制の構築</li> <li>金融庁指針等</li> </ul> <p><b>4. 近年企業に求められるコンプライアンス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CSR、公益通報、コンダクトリスク</li> <li>ダスキン株主訴訟(大阪高判平成18年6月9日)</li> <li>ピックモーター事件</li> <li>インサイダー取引規制違反</li> </ul> <p><b>5. リーガル・コンプラに関わる最新のトピックス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サイバーリスク</li> </ul> |
|--|--|



# ポートフォリオマネジメント業務 — 差別化に注目して —

9/3 木

講師 全セッション：柏原 延行 丸三証券 常務執行役員 投資信託部長 チーフ・グローバル・ストラテジスト

専門知識は実務経験がないと実感しにくいものです。そこで、本講義では、講師がファンドマネジャーとしての体験談や興味深いエピソードを交えながら、複雑な理論も楽しく理解できるよう解説します。また、一つの事象を複数の角度から説明することで、理解を深めます。これにより、「本当に理解できているのか」という疑問に対して、実際に理解できているのか、それとも理解したつもりになっているだけなのかが明確になります。

## Session 1 資産運用業界の現状と運用の基礎知識 10:00～11:30(90分)

- |   |   |  |
|---|---|--|
| <p><b>1. 資産運用業界の現状と今後の見通し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2つの箱(投資顧問と投資信託)とその特徴</li> <li>資産運用会社の経営戦略(本当に成長産業なのか?)</li> </ul> <p><b>2. 商品の特徴を理解するための基礎知識</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マーコピッツのポートフォリオセレクション</li> <li>効率的市場仮説</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>シヤープによるベータ値の導入、CAPM</li> <li>アノマリーの存在</li> <li>行動ファイナンス理論</li> </ul> <p><b>3. 取扱商品の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— メリット、デメリットに注目、どのような批判があるか?</li> <li>パッシブ運用 — ただ乗り? —</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>アクティブ運用             <ul style="list-style-type: none"> <li>— ベンチマークに勝つためには? —</li> </ul> </li> <li>パッシブとアクティブの関係は?</li> <li>クオンツ運用 — 伝統的なファンドマネジメントとの相違点 —</li> <li>オルタナティブ運用             <ul style="list-style-type: none"> <li>— 最も注目を集める投資手法? —</li> </ul> </li> </ul> |
|---|---|--|

## Session 2 どのようなプロダクトが必要なのか 11:30～13:00(90分)

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <p><b>1. 家計の資産運用の現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>100年安心年金の仕組み(年金制度自体は持続可能、しかし…)</li> <li>限定的な家計の資産運用             <ul style="list-style-type: none"> <li>— 預金への偏重 —</li> </ul> </li> <li>預金へ偏重しても問題なかった?             <ul style="list-style-type: none"> <li>— 重要なことは購買力の維持 —</li> </ul> </li> <li>インフレでなくても失われた購買力</li> <li>インフレになると             <ul style="list-style-type: none"> <li>— 不動産がインフレヘッジ機能を喪失 —</li> </ul> </li> </ul> | <p><b>2. 家計の資産運用が定着しない理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮説 — 金融リテラシー or 株式市場の不振 or 円高 or 金融サービスの担い手の問題 —</li> </ul> <p><b>3. 運用会社の課題と変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>機関投資家ビジネスと家計向けビジネス等</li> <li>資産運用業高度化プログレスレポート 2022、2023、2025</li> <li>多すぎるプロダクトと新規設定</li> </ul> | <p><b>4. 有望なプロダクトは?</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インデックス(スマートベータ)?</li> <li>預金代替?</li> <li>アクティブ?</li> </ul> <p><b>5. 差別化の源泉は</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アセットクラス</li> <li>定量面</li> <li>定性面</li> </ul> |
|--|---|--|

## Session 3 株式アクティブ運用を例として 14:00～15:30(90分)

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <p><b>1. 運用スタイル、哲学、プロダクトの差別化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般論</li> <li>大規模な会社と小規模な会社</li> </ul> <p><b>2. 意思決定プロセス確立の重要性</b></p> <p><b>3. 運用スタイル</b></p> <p><b>4. 成長性分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>段階</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>定量</li> <li>収益モデル</li> <li>経営戦略分析</li> </ul> <p><b>5. バリュエーション分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マルチプル型</li> <li>割引型</li> <li>その他</li> </ul> | <p><b>6. その他の投資判断の材料</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— マクロ、セミマクロの環境を理解することの重要性</li> </ul> <p><b>7. リスクモデルによるリスクコントロール</b></p> <p><b>8. アクティブ運用の評価方法</b></p> |
|---|--|--|

## Session 4 為替とデリバティブの利用 15:30～17:00(90分)

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <p><b>1. プロダクト理解のための理論：為替編</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>為替取引とは(スポットと為替予約取引、先渡し、先物)</li> <li>為替取引によるプレミアム(金利平價説の観点から)</li> </ul> | <p><b>2. プロダクト理解のための理論：デリバティブ編</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペイオフパターン図</li> <li>オプション(その種類と特殊な条項)</li> <li>具体的な商品例</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>キャッシュフロー</li> <li>オプションの価格がどのように決定されるのか?(モンテカルロの仕組みとブラックショールズモデル)</li> <li>オプションが現物市場に与える影響(デルタの概念とデルタヘッジ)</li> </ul> |
|---|--|--|



# トレーディング業務

9/4金

講師 全セッション：西野 俊介 セゾン投信 上級顧問 運用管理等担当

金融制度の変遷と市場構造の変化を踏まえ、売買執行業務を体系的に学びます。発注実務からシステム、執行分析、コンプライアンスまでを網羅し、バイサイド・セルサイド双方の視点から最良執行の本質を整理します。電子取引、HFT、PTS拡大、外国株式・債券取引の実務にも踏み込み、制度と執行の実務現場を結び付けて解説します。講師は大和証券でエクイティ部長、系列の運用会社のロンドン現法社長、外資系運用会社コンプライアンス部門の常務理事等を歴任した実務家であり、経営・現場双方の経験に基づく具体的な知見を提供します。

## Session 1 バイサイドトレーディングの概要

10:00 ~ 11:30 (90分)

1. **トレーディング業務の基本イメージ**
  - ・トレーディング業務の流れ、及び部門の位置づけ
2. **バイサイドトレーディング部門のミッション**
  - ・ファンドマネージャーとの役割分担と連携
  - ・バイサイドにおける最良執行の定義 — 価格の妥当性判断、説明責任等
  - ・狭義の執行コストと広義の執行コストの認識
  - ・執行コスト・ベンチマーク対比とコスト削減への取組 — 執行コスト分析ツールの活用
3. **執行環境を激変させた3大潮流変化と一部反転・パラダイムシフトの兆し (理想と現実のギャップ)**
  - ①金融ITテクノロジーの進化による取引の高度化、多様化
    - ・取引所売買システムのバージョンアップ、クロージング・オークション導入等の制度変更後の現状とHFT (高速・高頻度売買主体) の台頭がもたらす変化
  - ②世界経済危機 (リーマン、コロナ) が金融規制と未曾有の金融緩和を誘発、パッシブ化に拍車
    - ・過度で急激なパッシブ化がもたらす市場の歪みと逆風を受けるアクティブファンドの存在意義と期待
  - ③国内外の金融法制改定・規制見直しのインパクト

- ・米最高裁、SEC 行政処分権限定 (2024年6月) の波紋に加えてトランプの専横に揺さぶられる市場秩序
- ・フェアディスクロージャールールが問う"リサーチ情報"の『質』と『価値』、及び二つの課題と懸念 ("シャドウインサイダー"への対応、及び企業の開示姿勢減退?)
- ★上記潮流変化にさらされたセルサイドビジネススキームの変容と生き残りバトル
- ・金融規制強化によるポジション縮小と、大規模金融緩和で変わる証券会社のエクイティビジネス収益構造と大きな落とし穴 (プライム・プロカレッジビジネスの甘い蜜と露呈した過大レバレッジ・与信リスク)
- ・リサーチは一部外注で、ソリューションビジネスやウエルスマネジメントに傾斜し、更には海外アセマネ買収を進める野村、銀行との資本業務提携で富裕層向けコンサルや不動産ビジネスなどへ業容を拡げる大和…等々、興味深い外資、日系大手証券各社の重点ビジネス施策を比較
- ・米・日で進む個人向け手数料 (投信・株式) ゼロ化の流れで問われる各社の収益多角化進展度
- ・EUは欧米の「ゼロ手数料」の原資 (注文回送とリ

- ・米最高裁、SEC 行政処分権限定 (2024年6月) の波紋に加えてトランプの専横に揺さぶられる市場秩序
- ・フェアディスクロージャールールが問う"リサーチ情報"の『質』と『価値』、及び二つの課題と懸念 ("シャドウインサイダー"への対応、及び企業の開示姿勢減退?)
- ★上記潮流変化にさらされたセルサイドビジネススキームの変容と生き残りバトル
- ・金融規制強化によるポジション縮小と、大規模金融緩和で変わる証券会社のエクイティビジネス収益構造と大きな落とし穴 (プライム・プロカレッジビジネスの甘い蜜と露呈した過大レバレッジ・与信リスク)
- ・リサーチは一部外注で、ソリューションビジネスやウエルスマネジメントに傾斜し、更には海外アセマネ買収を進める野村、銀行との資本業務提携で富裕層向けコンサルや不動産ビジネスなどへ業容を拡げる大和…等々、興味深い外資、日系大手証券各社の重点ビジネス施策を比較
- ・米・日で進む個人向け手数料 (投信・株式) ゼロ化の流れで問われる各社の収益多角化進展度
- ・EUは欧米の「ゼロ手数料」の原資 (注文回送とリ

11:30 ~ 13:00 (90分)

## Session 2 エクイティトレーディング実務

1. **取引の種類と執行方法**
  - ・エクイティ取引の種類
  - ハイタッチ執行とロータッチ執行の分類
  - ・多様化する執行手法 (AI の活用領域等) と、それぞれのメリット比較
2. **取引の実際**
  - ・執行プラン立案、及び実際の発注と執行プロセスのモニタリング
  - ・ポートフォリオのリバランスとバスケット取引執行時の留意点 (ブラインド・バスケット等含む)

3. **電子取引の活用事例**
  - ・DMA、DSA
  - ・アルゴリズム取引及び、アルゴ・ホイール (Algo Wheel) 活用による業務のセミオートマチック化
4. **取引所外流動性 (代替執行市場) へのアクセス**
  - ・PTSとダークプール、及びこれらを活かす SOR (Smart Order Routing)
  - ・オーダー秘密性の観点から機関投資家も神経を尖らす、HFT のダークプール及びPTS 利用態様 (レイテンシー・アービトラージ等の実態)

5. **外国株式取引の実務**
  - ・時差のある市場における発注、約定処理のタイミングと取引手法
  - ・各国市場の異なるルール把握と取引時留意事項 (海外投資誘因目的で24時間取引を目指す米株市場)
  - ・外国株運用の3形態
  - ・外国株信用取引解禁
  - ・欧米運用会社におけるグローバル資産トレーディング手法の傾向、及びアジア株取引におけるブローカー評価

## Session 3 債券、外国為替、トレーディング、及び短期資金運用実務

14:00 ~ 15:00 (60分)

1. **取引の概略**
2. **国内債券取引**
  - ・債券売買業務の流れと実務上の留意点
  - ・機関投資家利用拡大でプレゼンスを高める債券ETF など投資ピーク化変化の現状
  - ・日銀政策変更の思惑から一時増加した "フェイル" や、その他国内債券関連リスク解説

3. **外国債券取引**
  - ・取引時の留意点 (時差、決済サイクル、為替の手当て、新発債起債時の Pot 方式とリテンション方式、等々)
  - ・従来のボイス取引に加え年々増加する電子取引や、ポートフォリオ取引、債券ETF の活用実態

4. **外国為替取引**
  - ・実需為替 (カバー為替) における留意事項
  - ・ヘッジ為替における留意事項、その他の留意事項と、NDF 取引
5. **短期資金取引**
  - ・日銀マイナス金利解除、その後の利上げに伴う余資運用の変化 (コール/ON のディーリング、ブローキング例等々)

## Session 4 執行コンプライアンスとトレーディング関連事項

15:00 ~ 17:00 (120分)

1. **グローバル潮流の変化と、国内市場へのインプリケーション**
  - ・理想 (公平性、透明性強化の思惑) と現実 (看過出来ないビジネスへの逆風) のギャップで挫折した MiFID2 の看板規制 "コミッション・アンバンドリング" (株式委託手数料の内訳開示)
  - ・EU、英国、各金融当局の同規制への当初の思惑と誤算、及び国内公的年金の "ソフトグラー" に対するスタンス
  - ・コミッション・シェアリング・アレンジメント (CSA) 内容と、"日本版 CSA" 実現の難しさ
  - ・金融不祥事処分権限における行政と司法のせめぎあい (米最高裁 vs SEC、国内行政処分後の裁判事例)
2. **国内市場における執行コンプライアンス関連共通課題と最良執行への取り組み**
  - ・HFT (高頻度・高速取引) 唯一の日系ファームを含む登録業者の素顔と内外当局による規制、及び登録業者の少なからぬ離脱に見る厳しい競争の実態 (金融庁によるHFT への監督指針内容等も含む)

3. **執行コンプライアンスと社内牽制機能の実態**
  - ・牽制・監視機能と売買チェックの基本項目
  - ・執行コンプライアンス・チェックのポイント — 特に法令違反回避に向けた留意点
  - ・金商法上の禁止行為等 ("相場操縦" と看做されて証券取引等監視委員会に告発された最近の事例解説)
  - ・トレード・モニタリングの実務 (株式 IPO、新発債応募ルールのポイント等含む)
4. **ブローカー選定・評価ポリシーと実務**
  - ・ブローカー選定規則の枠組みと選定委員会の設置ポリシー

- ・評価項目と評価実務、及び関連部門間の評価ウエイトの考え方 — 悩ましい "リサーチ" 評価の対応等
  - ・評価結果レビューの考え方と留意点 (運用会社もブローカーから "評価" されている)
  - ・債券、為替取引ブローカーの評価と選定 (何故、債券・為替業者のスコアリングが一般的ではないのか)
  - ・発注停止・発注先リスト除外措置の考え方と一般的なルール (最近の当局告発事例への対応と併せて解説)
5. **トレーディングシステム・インフラ (各種ツールの主要機能の違い、特徴等も解説)**
    - ・OMS と EMS (選定・導入のポイント)
    - ・電子取引ツールと執行分析ツール
    - ・ "AI トレーディング" の期待と現実 (アカウントビリティの壁等々)、RegTech (レグテック) の進化
    - ・ "AI 官民フォーラム" (2025年6月) で一部参加者から提示された AI 規制整備に向けた4つの懸念

# 外国籍投信関連業務

## <実務・応用編>

秋季限定企画

9/9水

講師 全セッション：長岡 弘寿 元 ピクテ・ジャパン プロダクト・マネジメント部長

外国籍投信の実務・応用編では、国内外外国投資信託の基本スキームから商品企画、設定・募集、フォローアップまでの実務を網羅的に解説した上で、ルクセンブルグ籍ファンドを例に、公募外国投資信託の国内持ち込みとファンド・オブ・ファンズの投資対象としての活用に焦点を当てます。各セッションでは、法規制、オペレーション、モニタリングなど、実務上の重要ポイントを詳細に取り上げ、現場で即活用できる知識の習得を目指します。

## Session 1 基本スキームの確認、留意点

9:45 ~ 11:30 (105分)

1. **主要スキームの概略・特徴 (ケイマン、ルクセンブルグ、ダブリン)**
  - ・SICAV (会社型)
  - ・FCP (契約型)
  - ・ユニット・トラスト等
  - ・アンブレラ形態 — サブ・ファンド — シェア・クラス
  - ・マスター・フィーダー・ファンド形態
  - ・シェア (ユニット) ・クラス形式
  - ・マルチ・マネジャー・ファンド形態

2. **関係法人の役割、責任 (ケイマン、ルクセンブルグ、ダブリン)**
  - ・管理会社
  - ・トラスティー
  - ・保管受託銀行 (カストディアン)
  - ・ファンド・アドミニストレーター
  - ・トランスファー・エージェント
  - ・代理人 (日本、設立地の弁護士事務所)
  - ・代行協会員 (公募外投の場合)
  - ・販売会社

3. **国内投信との違い**
  - ・管理会社の位置付け
  - ・適用法令の違い (発行開示、継続開示、会計監査制度、財務諸表の開示)
  - ・目論見書上の違い — 構成項目の主要ポイント — 記載内容の主要ポイント — 希薄化 (Dilution Levy) 等
  - 解約制限条項等
  - ・イコライゼーション (Equalization)
  - ・Swing Price 方式

## Session 2 商品企画実務

11:30 ~ 13:10 (100分)

1. **外国投信の選別基準 (日証協、投信協会基準) の確認、留意点**
  - ・日証協の選別基準 (公募外投)
  - ・投信協会規則の要件 (公募のファンド・オブ・ファンズ)
  - ・トラブル事例
2. **設立地の検討プロセス**
  - ・租税条約上の留意点 / その他留意点

3. **オペレーション上の留意点**
  - ・NAV 計算ベースの違い
  - ・設定・解約、受け渡しサイクルの違い
  - ・公募外投/ファンド・オブ・ファンズ
4. **ファンド・オブ・ファンズ**
  - ・メリット・デメリット/留意点
5. **私募投信**
  - ・メリット・デメリット/留意点

6. **規制・制度上の留意点**
  - ・AIFMD
  - ・UCITS
  - ・SFDR
  - ・会社型 (SICAV 等) 外投公募持ち込み時の留意点

## Session 3 設定、募集実務

14:10 ~ 15:50 (100分)

1. **商品概要確認シート作成 (公募外投)**
2. **金融当局への申請実務**
  - ・プロジェクト管理の為のガント・チャート作成
  - ・代行協会員、販売会社、代理人 (弁護士事務所) との連携
  - ・設立地当局の認可までのスケジュール調整 (必要時間の確認等)

- ・SRS (有価証券届出書)、目論見書、販売用資料等
3. **募集、マーケティングの際の留意事項**
    - ・金商法上の制約
    - ・業務の範囲 — 付随業務の範囲、海外管理会社との合意 (SLA) の範囲
    - ・セミナー等の開催

4. **ファンド・オブ・ファンズ (投資対象ファンド)**
  - ・既存ファンドの場合
  - ・新規ファンドの場合
5. **トラブル事例**
6. **繰り上げ償還時の手順、留意点**

## Session 4 フォローアップの実務

15:50 ~ 17:30 (100分)

1. **設定後の業務**
  - ・継続開示：月次レポート
  - ・運用報告書
  - ・情報提供のフォローアップ
  - ・変更、終了時の手続き
2. **オペレーション上の留意点**
  - ・公募外投
  - ・ファンド・オブ・ファンズ
3. **モニタリング上の留意点**
  - ・海外の事務代行会社における管理体制
  - ・監査報告書付き財務諸表
  - ・商品性/投資方針/リスク値および運用方針
  - ・運用体制、運用組織、運用プロセス

- ・プロスペクタス記載内容との整合性
  - ・インベストメント・ガイドラインとの整合性
4. **モニタリング手法**
    - ・アニュアル・レポート確認の重要性、留意点、確認ポイント
    - ・内部データ活用によるクロスチェック — パフォーマンスのモニタリング等
    - ・リスク管理システムに関する記述、レバレッジ数値の確認
    - ・ファンドのリスク管理、分散規制、運用体制の確認
    - ・運用者としての善管注意義務 — 定期的なデュー・デリジェンス
  5. **デュー・デリジェンスの手法、留意点**

- ・各項目および確認事項の整理
  - ・運用面：投資顧問会社向けデュー・デリジェンス
  - ・管理会社、トラスティー向けデュー・デリジェンス
  - ・ディジタルリー、FA/TA 向けデュー・デリジェンス
6. **欧州 UCITS から学ぶ重要点と将来への課題**
    - ・UCITS に関する EU 指令
    - ・UCITS (ルクセンブルグ籍、ダブリン籍) の現状、動向、活用方法
    - ・UCITS、アジア地域ファンド・パスポートにおける今後の方向性

講師 全セッション：外尾 光法 マネックス・アセットマネジメント シニアアドバイザー

金融工学の基礎から実務応用までを体系的に解説します。確率・統計の基本概念を出発点とし、ポートフォリオ理論やリスク推定を経て、ファクターモデルの詳細な解説へと段階的に進めていきます。特にマルチファクターモデルについては、スプレッドシートを用いたデモを通じて具体的に説明し、理解を深めます。また、クオンツ運用やポートフォリオ最適化など、実務的なトピックスも取り上げ、理論と実践の橋渡しを行います。数式が苦手な受講者にも配慮し、基礎から丁寧に解説することで、金融工学の実践的な理解を促進し、幅広い受講者のニーズに応えます。

## Session 1 金融工学への導入としての確率・統計

10:00 ~ 11:00 (60分)

- 1. 導入 — リターンとリスク
  - ・リターンの不確実性とは
    - 不確実な資産価値の変化をどう捉えるか
  - ・リスクをどうやって定量的に表すか
    - リターンの2乗平均の意味
  - ・リスクの大きさと資産変動
    - 標準偏差の大きさによる違いをシミュレーション
- 2. リターンの確率分布とリスクの関係
  - ランダムの中の規則性
    - ・リターンの分布 — グラフにすると分かりやすい
    - ・リスクと確率分布
      - リスクを定量化するとはどういうことか？
- 3. リスク推定方法 — 屈屈より目的
  - ・実際の資産のリターン分布と性質
    - 標準偏差だけでは計測できないリスクの存在
  - ・分散・共分散の推定方法
    - オプションのIV or ヒストリカルデータ
- 4. 相関係数と回帰分析
  - ポートフォリオ理論への導入
    - ・2つの確率変数
      - 株式の日次リターンを確率変数と考える
    - ・相関係数
      - 確率変数の動きから相関関係を捉える
    - ・回帰分析 — 標準偏差を等しくする

## Session 2 ファイナンス理論と実務の接点

11:00 ~ 13:00 (120分)

- 1. ポートフォリオ理論 — よい投資とは何なのか
  - ・ポートフォリオ理論の基本的な考え方
    - ポートフォリオの期待リターンとは？
  - ・ポートフォリオのリスク
    - 3資産で効率的フロンティアを描くとどうなる？
- 2. アクティブ — ウェイト・リターン・リスク
  - ・アクティブ運用とパッシブ運用
    - ファンドマネジャーは何をコントロールしているのか

## Session 3 ファクターモデルの活用

14:00 ~ 16:30 (150分)

- 1. ファクターモデル — リターン相関の構造
  - ・ファクターモデルの位置付けと考え方
    - 複数の銘柄を共通に動かす要因を探る
  - ・なぜ銘柄間に相関があるのか
    - ファクターモデルと共通要因
    - 銘柄間の相関構造を明らかにする
  - ・ファクターモデルの構造と用途
    - どんな時に利用するのか
  - ・ファクターモデルと銘柄情報
    - ・情報の集約
      - ファクターモデルは大量の情報を集約するための有用なツール
    - ・ファクターモデルによる分析例
      - リスクインデックス・エクスポージャー
- 2. シングルファクターモデル — マーケットが相関の源
  - ・ $\beta$  (ベータ) の求め方 —  $\beta$  値の特性を理解する
  - ・シングルファクターモデルと銘柄間相関
    - ファクターに対する $\beta$ 値から相関を求める
  - ・期待リターンとリスク
    - 銘柄のリターンとリスクはどこからくるのか？
- 3. マルチファクターモデル — 複数の相関の源
  - ・マルチファクターモデルの基本構造
    - モデル形式と銘柄相関
  - ・ファンダメンタルズベータ
    - マルチファクターモデルからの計算方法
  - ・実務で多く使われるモデル
    - Barraのスタイルファクターと業種ファクター
  - ・感応度先決め型①
    - ファクターリターンとファクター感応度

## Session 4 アルファの獲得とクオンツ運用

16:30 ~ 17:00 (30分)

- 1. クオンツ運用 — 一番わかりやすい運用
  - ・ポートフォリオ構築プロセスの全体像
  - ・アノマリー
    - 存在理由を知ることによる効果的な活用
  - ・アルファの合成
    - アノマリーをアルファへ変換する
  - ・アルファ構築の流れ — AI 運用？
- 2. インフラ — 大変です
  - ・クオンツファンド
    - 決められている条件と決めるべき条件
  - ・ポートフォリオ構築へ
    - 取るべきリスクと取ってはいけないリスク
  - ・ポートフォリオ最適化とシミュレーション
    - 幻想ではなく現実を見るために

講師 全セッション：東中川 教明 ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント ファンド・コントローラーズ部長

投資信託業務に関する講義では、投信の仕組みやオペレーション全体を体系的に学びます。初中級者に適した内容で、約定・受渡、追加・解約、基準価額の計算、決算業務に関する実践的な内容を解説します。特に、日本の投信計理のユニークな仕訳を計算事例と共に紹介し、基準価額や分配金の算出メカニズムを理解できるようサポートします。

## Session 1 投資信託のしくみと委託者の役割

10:00 ~ 12:00 (120分)

- 1. 投資信託の法令と規則
  - ・マイナス金利対応
- 2. ファンドの形態と関係法人
  - ・契約型と会社型
  - ・投資信託・投資法人の分類
    - それぞれの純資産総額及びファンド本数
  - ・公募と私募の違い
  - ・契約型ファンドの分類と具体例
  - ・マザーファンドとベビーファンド
    - ファミリー方式のメリット
- 3. 基準価額計算及び追加・解約の流れ
- 4. 投資信託に関するオペレーション業務
  - ・1日の業務の流れ(約定関連業務、追加解約関連業務、基準価額計算関連業務)
  - ・投資信託に関するシステム
  - ・資金繰り照合
- 5. 自社算出と受任銀行に業務委任する場合の違い
  - ・受任銀行に計算業務を委託する場合と主な役割分担
- 6. 投信振替制度
  - ・投信振替制度移行後の関連図
    - STPとDVPの実現
  - ・振替投信移行後の非DVP決済の資金の流れ
- 7. 法定帳簿の管理
  - ・法定帳簿の種類と電磁的方法による保存
- 8. レポート作成業務
  - ・財務諸表
  - ・運用報告書
  - ・特別勘定のしおり
  - ・BISリスクアセットレポート/諸官庁・投信協会へのレポート
- 9. その他
  - ・ファンドの監査(公募投信/私募投信)と価格調査

## Session 2 計理仕訳 + ミニ演習

13:00 ~ 15:00 (120分)

- 1. 計理仕訳(主な計理処理について基本から例題を用いて解説)
  - ・基本的な考え方 — 複式簿記と日計表
  - ・基準価額の計算方法
  - ・ファンド設定時
  - ・株式約定
  - ・債券約定
- 2. 計理仕訳ミニ演習
  - ・国内株
  - ・国内債券

## Session 3 決算関連業務/外国投信を組入れたファンド・オブ・ファンズの留意点

15:00 ~ 16:30 (90分)

- 1. 決算関連業務
  - ・一般的な分配金決定の流れ
  - ・追加処理後の分配原資
    - 基準価額が元本を上回っている場合/下回っている場合
  - ・解約処理後の分配原資
  - ・分配金原資の計算方法(原資の内訳)
  - ・分配原資の一般的な引き落とし順序
  - ・運用報告書での開示強化
  - ・収益分配金計算書の解説
    - 分配可能額算出の仕組みを理解する
- 2. 外国投信を組入れたファンド・オブ・ファンズの留意点
  - ・外国所得税除があった場合の分配金支払い
    - 税制改正が影響
  - ・分配のトレンド
  - ・概観図による解説
  - ・ファンド・オブ・ファンズの形態と特徴
  - ・公募ファンド・オブ・ファンズのルール
  - ・外国投信を組入れる際の主な要件
  - ・組入れる外国投信のしくみ(ユニットトラスト/コーポレートファンド)

## Session 4 投信業界の今後の課題

16:30 ~ 17:00 (30分)

- 1. 金融庁指導と市場動向
- 2. 基準価額の一元化
  - ・基準価額の一元化とは
- 3. マテリアリティポリシー
- 4. 資産形成等に係る課題
  - ・SMA/ラップ口座へのファンド提供
  - ・新NISA、DCにおけるデフォルトファンドの設定
- 5. パーゼール3
- 6. アジア地域ファンドパスポート (ARFP)
- 7. 投信業界最新動向

# 債券ポートフォリオマネジメント実践演習

## — グローバル債券・為替の模擬トレード演習

新規講座

9/14月

講師 全セッション：横谷 宏史 ピクテ・ジャパン 執行役員 商品本部長  
山下 文音 ステート・ストリート・グローバル・アドバイザー 債券ポートフォリオ・マネージャー

ポートフォリオマネジメントとは、立案された運用戦略を実際のポートフォリオで実現する運用業務の中核部分です。本講義は、債券ポートフォリオマネジメントの基礎から実務までを、実務に即して習得したい方を対象としています。グローバル債券市場や債券・為替取引、ポートフォリオ管理、基本的な運用戦略を解説したうえで、複数の債券ポートフォリオを用いた模擬トレード演習を行います。講師陣のこれまでの経験を踏まえ、可能な限り実際の仕様に近づけた模擬演習ツール (EXCEL) により、トレードの立案からトレードチケットの作成、執行判断までを実践的に体験いただけます。さらに、現役のポートフォリオマネージャーやトレーダーがフィードバックを行い、理論だけでなく実務的な視点や判断力を養うことを目指します。理論理解にとどまらず、実務で求められる判断基準や思考プロセスを習得いただける内容です。

### Session 1 債券ポートフォリオマネジメントの基礎知識

10:00 ~ 11:30 (90分)

#### 1. 実務に必要な債券の基礎知識

- 債券とは？
- 債券価格と利回り
- デュレーション
- 債券の属性の見方
- 主な国の国債と為替

#### 2. 債券・為替取引とポートフォリオ管理

- 債券取引
- 為替取引
- 債券取引の流れと為替取引
- 債券取引の約定から決済 (受け渡し) までの流れ
- 債券ポートフォリオの管理
- 債券取引における留意点

#### 3. 債券運用戦略

- パッシブ運用とアクティブ運用
- パッシブ運用の種類
- グローバル債券運用の収益源泉
- アクティブ (国債) 運用の戦略 — デュレーション戦略
- アクティブ (国債) 運用の戦略 — 国 (通貨) 別配分戦略
- アクティブ (国債) 運用の戦略 — イールドカーブ (残存期間) 戦略
- ロールダウン効果と所有期間利回り
- イールドカーブの決定要因
- イールドカーブの主成分分析 — 計量的アプローチ

- イールドカーブの形状変化
- イールドカーブの形状変化の要因
- イールドカーブの動きについて考えてみよう
- ダンベル・プレット戦略
- バタフライ戦略 (債券先物を活用しカーベチャーの変化をとらえる)

### Session 2 債券ポートフォリオマネジメントを体験する①

11:30 ~ 13:00 (90分)

#### 1. 実践演習問題の準備

- 債券ポートフォリオマネジメント実践演習の進め方
- 債券ポートフォリオマネジメントツールの使い方
- 準備された債券アクティブポートフォリオの見方と特徴

#### 2. 実践演習問題 (基本編)

- ポートフォリオのデュレーション、為替、キャッシュポジション等の調整

### Session 3 債券ポートフォリオマネジメントを体験する②

14:00 ~ 17:00 (180分)

#### 1. 実践演習問題 (実践編)

- 複数ポートフォリオの取り扱い
- キャッシュフロー対応 (ポートフォリオの構築)

- 戦略的トレード (債券ポートフォリオ戦略の立案と実行)
- 緊急のポートフォリオ調整 (応用的事例)
- その他実践演習問題



# デジタルマネーとデジタル証券がもたらすファンド業務革新

## — イノベーションの本質に着目して

リニューアル 半日講座

9/15火

講師 全セッション：葵木 慎吾 日本証券金融 リスク管理部 副部長

デジタル証券の最新動向と分散台帳技術の進化を体系的に学ぶことで、受講者がイノベーションの本質を理解し、資産運用業界の変化を主体的に見極める力を養うことを目的としています。ビットコイン誕生以降、分散台帳技術はデジタルマネーやセキュリティ・トークンなど多様な形で応用され、資産運用のバリューチェーンに大きな変革をもたらしています。本講義では、過去の業務革新やイノベーションの事例を振り返りながら、単なる技術導入では終わらないイノベーションの本質を明らかにします。さらに、デジタル証券やデジタルマネーの最新事例を通じて、業界の動向や今後の可能性を具体的に解説。新技術の一過性の流行に惑わされず、競争環境を変える本質的な変化を見極めるための視点を身につけていただけます。

### Session 1 イノベーションとは何か

13:00 ~ 14:10 (70分)

#### 1. 業務革新の歴史とイノベーションの定義

- はじめに
- 繰り返されてきた業務革新への期待、そして失望
- RWAトークン化の波が押し寄せている

- イノベーションの誤解
- イノベーションの最新の定義

#### 2. 事例でたどるイノベーションステップ

- イノベーションステップ①トライアングル
- イノベーションステップ②価値創造

- イノベーションステップ③態度変容
- イノベーションステップ④行動変容
- 事例紹介
- 価値創造=イノベーションではない
- 逆転のイノベーション

### Session 2 資産運用業界における分散台帳技術の活用事例

14:10 ~ 15:40 (90分)

#### 1. デジタルマネーの概要

- 資産内容による分散台帳技術活用事例の分類
- デジタルマネーのマトリックス
- CBDCのバリューチェーン
- 信用創造の仕組み
- クロスボーダー送金、貿易決済の仕組み
- DLTを用いたクロスボーダー決済のバリューチェーン

- デジタル証券 (セキュリティ・トークン) のマトリックス
- 米国債裏付けのセキュリティ・トークン市場
- トークン化MMFのバリューチェーン
- 日本のセキュリティ・トークン市場
- 不動産セキュリティ・トークンのバリューチェーン

#### 2. イノベーションステップによる解説

- DLTを用いたクロスボーダー決済
- トークン化MMFのバリューチェーン
- 不動産セキュリティ・トークンのバリューチェーン

### Session 3 ファンド運用業者が持つべき変化を見極める目

15:40 ~ 16:00 (20分)

- これまでのまとめ

- 3つの提言

- 質疑応答



# オルタナティブ投資・プライベート・エクイティ・ファンド

9/16水

講師 全セッション：佐村 礼二郎 エー・アイ・キャピタル 代表取締役社長

プライベート・エクイティ(PE)の基礎から実務までを幅広く網羅した、包括的なプログラムです。まず、PEの定義やファンドの特徴、多様な投資戦略について学びます。次に、リーガル・ストラクチャーや投資条件など、PEファンドの仕組みを詳しく理解します。実務編では、投資形態の違い、投資方針の策定、デュー・デリジェンス、モニタリングなど、実践的なスキルを習得します。さらに、最新の業界動向や注目トピックを取り上げ、PEの将来像についても考察を深めます。経験豊富な講師が、基礎から具体的な事例までを体系的に解説し、受講者がPEの全体像を総合的に理解できる内容となっています。

## Session 1 プライベート・エクイティに関する基本知識

10:00 ~ 12:00 (120分)

### 1. プライベート・エクイティの定義

- ・プライベート・エクイティとは
  - アセットクラスとしてのPEの位置づけ
- ・オルタナティブ投資における位置づけ
  - ⇒ ヘッジファンドとの区分
  - ⇒ 収益の源泉による分類
- ・ポートフォリオ全体における位置づけ
- ・プライベート・エクイティの役割・価値の源泉
  - 株式価値を増加させるためには？

### 2. プライベート・エクイティ・ファンドの特徴

- ・プライベート・エクイティ・ファンドの特徴
  - ⇒ Jカーブの存在
  - ⇒ 低流動性
  - ⇒ ファンド間のリターン差
- ・プライベート・エクイティ・ファンドの主な課題
  - ⇒ Jカーブ — キャッシュフローのJカーブと損益のJカーブ
  - ⇒ 流動性 — 流動性がないことのメリット

### 3. 様々なプライベート・エクイティ投資戦略

- ・プライベート・エクイティの代表的戦略
  - ⇒ 企業ライフサイクル
  - ⇒ リスク・リターン
  - ⇒ 資本構造
- ・プライベート・エクイティのサブ・アセットクラス
- ・プライベート・エクイティ/サブ・アセットクラスの相違点
  - ⇒ NAV変動 — スムージング効果？

## Session 2 プライベート・エクイティ・ファンドの仕組み

12:00 ~ 13:00 (60分)

### 1. リーガル・ストラクチャー

- ・一般的な投資スキーム
  - ⇒ 国内籍投資事業有限責任組合
  - ⇒ 外国籍リミテッド・パートナーシップ
  - ⇒ 有限責任
  - ⇒ パススルー課税
  - ⇒ 出資約束金額(コミットメント)方式
  - ⇒ 組合員の出資割合に応じて損益配分・財産分配
  - ⇒ 国内無限責任組合員(GP)ストラクチャーの新しいトレンド

- ・関連法、税務について — 国内機関投資家の観点
  - ⇒ 海外源泉税
  - ⇒ 海外での申告義務
  - ⇒ 配当に関する源泉税免除手続き(非課税法人)
  - ⇒ タックスブロッカー
  - ・適格機関投資家等特例業務について
- 2. 基本的な投資条件
  - ・投資家としてのチェックポイント
    - ⇒ 利害の一致
    - ⇒ ガバナンス

- ⇒ 透明性
  - ・一般的なファンド条件と要確認事項
  - ・一般的なファンドのキャッシュフロー
  - ⇒ バイアウト
  - ⇒ セカンダリー
  - ⇒ ダイレクト・レンディング
- 3. 年金基金が投資を行う仕組み
  - ・信託銀行と投資顧問を活用した投資スキーム

## Session 3 投資実務

14:00 ~ 16:00 (120分)

### 1. 投資形態の違い

- ・具体的な投資形態の例
  - ⇒ シングルファンド/ Fund of Funds
  - ⇒ セカンダリー Fund of Funds
  - ⇒ Co-Investment (共同投資) Fund
- ・各投資形態のメリット・デメリット
  - ⇒ セカンダリー/ダイレクト・レンディング
- 2. 投資方針の策定/ポートフォリオ構築
  - ・投資プログラム構築の考え方
    - ⇒ PE導入の意義
    - ⇒ 目標リスク・リターンの設定
    - ⇒ 残高(アロケーション比率)目標
  - ・投資方針の策定
    - ⇒ 投資環境の把握(マクロ・アプローチ)
    - ⇒ アセット・アロケーション(戦略、地域、分散等)策定
    - ⇒ ロングリスト/ショート・リスト策定

### 3. デュー・デリジェンス

- ・デュー・デリジェンスのポイント
  - ⇒ 組織/投資チーム
  - ⇒ 投資戦略および市場環境
  - ⇒ トラッキングレコード
  - ⇒ ファンドストラクチャー
  - ⇒ その他
- 4. モニタリング/リスク管理
  - ・モニタリング
    - ⇒ モニタリングの目的
    - ⇒ モニタリングの情報ソース
    - ⇒ 定量モニタリングおよび定性モニタリング
  - ・リスク管理
    - ⇒ リスク管理の目的(運用リスク、オペレーションリスク、システムリスク)

- ⇒ 時価の考え方
  - プライベート・エクイティの時価とは？
  - ⇒ システム対応
  - ⇒ システムのアウトプットイメージ
- 5. 事務フローのイメージ(投資一任業務の場合)
  - ・当初申込み手続き(新規コミットメント)
  - ・投資時に必要な契約書類
  - ・キャピタル・コール
  - ・ディストリビューション(分配)
  - ・契約修正対応
  - ・(ファンドからの)四半期報告・決算書受領および時価計上
  - ・(顧客あて)四半期報告のプロセス

## Session 4 プライベート・エクイティ市場の将来像

16:00 ~ 17:00 (60分)

### 1. 国内VC概観

- ・歴史
- ・国内スタートアップ資金調達額と社数
  - ・2024年スタートアップ資金調達額上位10社
  - ・2024年調達後スタートアップ時価総額上位10社
  - ・1社あたりの資金調達額傾向
- ・国内IPO数推移
- ・国内VCファンド募集額推移

### 2. セカンダリー投資

- ・セカンダリー投資の仕組み
  - ⇒ 一般的なLPセカンダリー、GP主導型セカンダリー、ダイレクトセカンダリー
  - ⇒ グローバルセカンダリー市場規模
  - ⇒ GP主導型セカンダリー市場規模

### 3. EMP

- ・日本版EMPの全体像
- ・新興ファンド投資について
  - ⇒ ダイレクトセカンダリー市場規模
  - ⇒ セカンダリープライシング推移
  - ⇒ セカンダリー市場の今後

# <初級中級編> 投資信託約款の読み込み方

講義時間拡大

9/18金

— 約款の逐条解説により、法律的根拠や制度的背景など投資信託を体系的に学ぶ —

講師 全セッション：宮園 喜明 元 三井住友信託銀行 受託業務推進部 投信受託課 主任調査役

投資信託約款は、運用会社と信託銀行がファンドの運用や運営の方針を規定する契約書であり、投資信託を理解するうえで極めて重要な文書です。本講義では、実際の約款を使った逐条解説を行い、各条文のポイントとなる部分を読み込むことで約款の総合的な把握に繋がっていきます。基本となる知識を確実に押さえ、運用の基本方針や信託事務及び受益権に係る各種規定や収益の分配方式などを具体的に学び、これまで経験則としてなんとなく分かったつもりになっていたことも、より深くかつ体系的に理解できるようになります。

## Session 1 約款を読み込むための基本知識

9:45 ~ 11:30 (105分)

1. 「投資信託約款」とは何か
2. 「投資信託」の「信託」とは何か
3. 投資信託の全体像

4. 「株式投資信託」と「公社債投資信託」
5. 「証券投資信託」について
6. 「有価証券」について

- 【参考】「法体系について」、「条文の構成について」
- 【参考】「私募投資信託について」

## Session 2 約款本文からポイントを学ぶ I

11:30 ~ 13:00 (90分)

1. 運用の基本方針
2. 信託の種類、委託者及び受託者
  - 委託者指図型投資信託契約の締結
3. 信託事務の委託
  - 原受託者から再信託受託者へ信託事務の再委託
4. 信託の目的及び金額、信託金の限度額
  - 個別元本方式への変更の影響
5. 信託期間
  - 「信託契約解約の日」及び「信託終了の日」
6. 受益権の取得申込みの勧誘の種類
  - 金商法の規定と投信法の規定

7. 当初の受益者、受益権の分割及び再分割
  - 受益権の再分割は社振法による
8. 追加信託の価額及び口数、基準価額の計算方法
  - 純資産総額の計算
9. 信託日時の異なる受益権の内容
  - 分配金はなぜ基準口数当たり同額か
10. 受益権の帰属と受益証券の不発行
  - 社振法の適用と振替受益権
11. 受益権の申込単位及び価額
  - 金融商品取引業者と登録金融機関

12. 受益権の譲渡に係る記載又は記録
  - 振替口座簿に係る振替機関等とは
13. 受益権の譲渡の対抗要件
  - 委託者及び受託者への対抗要件
14. 投資の対象とする資産の種類
  - 特定資産および特定資産以外の資産
15. 運用の指図範囲等 — 第1項有価証券、第2項有価証券の具体例
  - 【参考】「一人私募について」

## Session 3 約款本文からポイントを学ぶ II

14:00 ~ 15:30 (90分)

1. 利害関係人等との取引等
  - 利益相反行為について
2. デリバティブ取引等にかかる投資制限
3. 信用リスク集中回避のための投資制限
4. 信託業務の委託等
5. 混蔵寄託
  - 混蔵寄託の内容とその代表例

6. 投資信託財産の登記等及び記載等の留保等
  - 信託の登記、及び具体例
7. 資金の借入れ — 三者協定書、四者間覚書
8. 受託者による資金の立替え
  - 受託者が行う未収入金の立替え
9. 信託の計算期間
  - 内閣府令における例外規定

10. 信託財産に関する報告等
  - 金商法の規定と投信法の除外規定
11. 信託事務の諸費用
  - 公募投信におけるファンド監査

## Session 4 約款本文からポイントを学ぶ III

15:30 ~ 17:10 (100分)

1. 信託報酬の総額及び支弁の方法
  - 未払費用の信託報酬額は消費税相当額込み
2. 収益の分配方式
  - 追加型、単位型での違いと、追加型公社債投資信託
3. 収益分配金、償還金及び一部解約金の支払い — 投信協会規則との整合性

4. 収益分配金及び償還金の時効
  - 収益分配金5年、償還金10年の根拠
5. 信託契約の一部解約
  - 信託財産留保額とその導入の経緯
6. 質権口記載又は記録の受益権の取扱い
  - 第三者に対抗する為の質権口記載
7. 投資信託契約の解約
  - 「できます」規定と「させます」規定

8. 受託者の辞任及び解任に伴う取扱い
  - 旧法信託約款の規定との違い
9. 投資信託約款の変更等
  - 重大かつ非重大かを判別するフロー
10. 反対受益者の受益権買取請求の不適用
11. 運用報告書に記載すべき事項の提供
12. 公告 — 約款では官報への掲載を公告の手段としない

# オルタナティブ投資・ヘッジファンド 秋季限定企画 9/24

講師 全セッション：向井 康晴 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング ファンド分析部シニア・ファンドアナリスト/  
ヘッジファンド&マルチアセットチーム・リーダー

ヘッジファンドの基礎知識から投資実務まで幅広くカバーする包括的な内容です。定義や特徴、伝統的運用との違いから始まり、投資戦略やパフォーマンス、投資意義と注意点を解説します。さらに、主要投資家の動向や投資スキーム、運用報酬についても触れます。実務面では、投資プロセス、ファンド評価、ポートフォリオ構築、モニタリングを詳説します。最後に、透明性や流動性、規制、将来展望など、ヘッジファンド投資の今後についても議論します。経験に基づいた実例を交えた説明で、ヘッジファンドの全体像を体系的に理解できる構成となっています。

## Session 1 ヘッジファンドとは 10:00 ~ 12:00 (120分)

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <b>1. ヘッジファンドの定義</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ヘッジファンドとは</li><li>ヘッジファンドの歴史</li><li>ヘッジファンドの位置づけ</li></ul>  | <ul style="list-style-type: none"><li>⇒ イベントドリブン戦略</li><li>⇒ 株式ロング/ショート</li><li>⇒ マクロ戦略</li></ul>   | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 存続期間</li><li>・ ファンド・オブ・ヘッジファンドの推移</li><li>・ マルチ戦略ヘッジファンドの推移</li></ul>   |
| <b>2. ヘッジファンドの特徴</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ヘッジファンドの設定地</li><li>ヘッジファンドの報酬体系</li><li>ヘッジファンドの解約条件</li><li>ヘッジファンドのパフォーマンス</li><li>ヘッジファンドのリスク/リターン特性</li></ul> | <b>4. ファンド・オブ・ヘッジファンドとマルチ戦略ヘッジファンド</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ファンド・オブ・ヘッジファンドとは</li><li>マルチ戦略ヘッジファンドとは</li><li>ファンド・オブ・ヘッジファンドとマルチ戦略</li></ul> | <b>6. ヘッジファンドの主要な運用者</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ヘッジファンド運用会社の所在地</li><li>ヘッジファンドの運用拠点別戦略</li><li>ヘッジファンド・ランキング</li><li>大手ヘッジファンドの寡占化</li><li>日本を投資対象とするヘッジファンド</li><li>ファンド・オブ・ヘッジファンド・ランキング</li><li>大手ファンド・オブ・ファンズの買収・合併</li></ul> |
| <b>3. ヘッジファンドの様々な戦略</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ヘッジファンドの戦略分類</li><li>⇒ 相対株価戦略</li></ul>   | <b>5. ヘッジファンドの推移</b> <ul style="list-style-type: none"><li>運用資産残高推移</li><li>ファンド数推移</li><li>新規設定・清算数の推移</li></ul>   | <b>7. ヘッジファンド投資の意義と注意点</b>  |

## Session 2 ヘッジファンド投資の動向 12:00 ~ 13:00 (60分)

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <b>1. ヘッジファンドの主要投資家の動向</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ヘッジファンドの投資家層</li><li>⇒ 特性</li><li>⇒ 地域別規模</li><li>ヘッジファンド戦略別資金流入</li><li>米国大学基金の投資動向</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 国内大学基金の投資動向</li><li>・ 米国年金の投資動向</li><li>・ 国内年金の投資動向</li><li>・ ソブリン・ウエルス・ファンドの投資動向</li><li>・ 個人投資家の投資動向</li><li>・ ヘッジファンドの主要関係者</li></ul> | <b>2. ヘッジファンドへの投資スキーム</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ヘッジファンドへの投資形態とスキーム</li><li>マネージド・アカウント</li><li>リキッド・オルタナティブ</li><li>ヘッジファンドの投資条件</li></ul> |
|   |  | <b>3. ヘッジファンドの運用報酬</b>   |

## Session 3 ヘッジファンド投資の実務 14:00 ~ 16:00 (120分)

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <b>1. ヘッジファンド投資におけるプロセス</b> <ul style="list-style-type: none"><li>基本方針策定</li></ul>  | <ul style="list-style-type: none"><li>⇒ ドローダウン</li><li>⇒ ローリング・リスク/リターン</li></ul>  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ ボトムアップ・アプローチ</li><li>・ 個別ファンドへの配分の決定</li><li>・ リスク管理</li></ul>   |
| <b>2. ファンド評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ファンド評価の流れ</li><li>⇒ 情報収集</li><li>⇒ 基礎調査</li><li>⇒ インタビュー</li><li>⇒ 評価レーティング付与</li><li>オペレーショナル・デュー・デリジェンスの重要性</li><li>ヘッジファンドの破綻要因</li><li>ファンド評価(運用面)</li><li>ファンド評価上の注意点</li><li>定量分析</li><li>⇒ リターン</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>⇒ シャープ測定</li><li>⇒ ピア比較</li><li>⇒ ベータ(β)</li><li>⇒ マルチ・ファクター</li><li>・ ファンド評価(オペレーション面)</li><li>・ ファンド評価上の注意点(オペレーション面)</li><li>・ ヘッジファンド会社のガバナンス</li><li>・ 代表的なアドミニストレーター</li></ul> | <b>4. モニタリング</b> <ul style="list-style-type: none"><li>モニタリング上の注意点</li><li>モニタリングの目的(運用面)</li><li>モニタリング事例(米国株式L/Sの事例)</li><li>破綻事例と教訓</li></ul> |
|   | <b>3. ポートフォリオ構築</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ポートフォリオ構築の全体像</li><li>トップダウン・アプローチ</li></ul>   | <b>5. 参考</b> <ul style="list-style-type: none"><li>直近のファンド破綻事例</li><li>直近の市場混乱時の状況(2020年3月)</li><li>最近のニュース・フロー</li></ul>                        |

## Session 4 ヘッジファンド投資の今後 16:00 ~ 17:00 (60分)

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <b>1. 透明性・流動性・運用報酬</b> <ul style="list-style-type: none"><li>運用資産業界の今後</li><li>リキッド・オルタナティブ(米国/欧州/日本)</li></ul> | <b>2. ヘッジファンドに関する規制</b>   | <ul style="list-style-type: none"><li>・ ヘッジファンド戦略の最近の動向</li></ul> |
|   | <b>3. 将来</b> <ul style="list-style-type: none"><li>運用会社にとってのヘッジファンド</li><li>ヘッジファンド投資家の動向</li></ul> |   |

# バックオフィス業務<投資顧問・投資一任編> 9/28

講師 全セッション：和村 雅義 エックスネット シニアコンサルタント

投資顧問・投資一任に関するバックオフィス業務について学びます。約定から受渡、残高作成、権利配当付与、時価評価、レポート作成に至るまでの流れを豊富なサンプルを用いて詳しく解説します。特に、運用会社のバックオフィスの役割とその実務内容に焦点を当て、信託銀行や保険会社でも通じる基本的な知識を提供します。受講者はファンド管理の具体的なプロセスや信託銀行との連携を理解し、実務に活かせる知識を得ることができます。

## Session 1 バックオフィス業務の概観とファンド管理の実務 10:00 ~ 12:00 (120分)

- |   |  |   |
|---|--|---|
| <b>1. バックオフィス業務の概観</b> <ul style="list-style-type: none"><li>— ファンド管理システムを中心とした業務概観</li><li>インプットとアウトプット/ファンド管理データの要件</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ ファンド属性の登録</li><li>— 正確なファンド属性の登録/ファンド属性の種類/ファンド属性の項目</li><li>・ 銘柄属性登録および時価情報入手</li><li>— 国内証券/外国証券および為替レート</li></ul> | <b>4. 法定帳簿等の電子化および法定に基づいた保存</b> <ul style="list-style-type: none"><li>法定帳簿(運用報告書)の保存</li><li>信託報告書</li><li>その他保存必要書類(議決権行使の招集通知、判定書、指図書)</li><li>その他保存必要書類(日次・月次処理における証跡書類)</li></ul> |
| <b>2. ファンド属性設定・銘柄属性設定</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ファンド属性の確認</li><li>— 正確なファンド情報入手/手続きの事前確認/事前確認の主な留意点</li></ul>   | <b>3. ファンド管理(日次・月次等の流れ)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>日次業務の流れ</li><li>月次・四半期業務の流れ</li></ul>  |   |

## Session 2 約定処理と株式議決権行使の実際 12:00 ~ 13:00 (60分)

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <b>1. 約定処理(国内資産)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>国内資産約定処理/一般振替DVP制度</li></ul>  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 決済とフェイル管理</li><li>・ 為替紐付け</li><li>・ カバー&amp;ノンカバー経理</li><li>・ ノンカバー取引における外貨預金と未収・未払金</li><li>・ 外貨建証券ノンカバー取引の仕訳</li><li>・ 約定ベース・ノンカバー処理(外国株式：売り)</li></ul> | <b>3. 株式議決権行使</b> <ul style="list-style-type: none"><li>議決権行使の対象ファンド</li><li>議決権行使の方法</li><li>日本株式の議決権行使(ICJ等利用例)</li><li>外国株式の議決権行使(ISS等利用例)</li><li>日本株式の議決権行使フロー図(一般)</li></ul> |
| <b>2. 約定処理(海外資産)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>海外証券の決済 — 決済と保管の形態とコントラクト決済</li><li>外国カストディ決済のスケジュール</li><li>現地決済資金のフロー</li><li>外国証券約定処理</li><li>為替約定管理</li></ul> |   |  |

## Session 3 ブッキングと信託報告書との照合手順 14:00 ~ 15:30 (90分)

- |   |  |   |
|---|--|---|
| <b>1. ファンドの報告概要</b> <ul style="list-style-type: none"><li>運用報告書と信託報告書</li><li>ファンドの会計基準</li><li>実現主義と発生主義</li><li>時価総額の構成要素</li><li>各種利回り計算要素</li><li>時間加重収益率</li><li>(簡便法/修正ディーツ法/厳密法)</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 照合準備のための補充データの入力</li><li>・ 補充データの種類とキャッシュ残高の照合</li><li>・ 相違の概略の把握(B/S・P/L照合)</li><li>・ 銘柄別簿価残高照合と売買損益(キャピタル)の修正</li><li>・ 簿価相異の典型的ケース</li><li>・ 銘柄別時価残高と未収収益の照合</li><li>・ 報告書の最終チェック</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 元加と収益払い出し(簿価会計/時価会計)</li><li>・ 決算処理での留意点</li></ul>  |
| <b>2. ファンドの照合実務</b> <ul style="list-style-type: none"><li>照合・突合とは</li></ul>   | <b>3. 決算処理</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ファンド毎の計理基準と決算処理</li></ul>   | <b>4. データ・ブッキングの方法</b> <ul style="list-style-type: none"><li>日次データ・ブッキングの目的</li><li>キャッシュフロー関係データとキャッシュ残照合</li><li>取引の約定データ</li><li>時価、未収、権利処理</li><li>銘柄別簿価等残高照合</li></ul> |

## Session 4 ディスクロージャー資料と運用報告の実際 15:30 ~ 17:00 (90分)

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <b>1. 運用報告書の種類</b> <ul style="list-style-type: none"><li>法定書面</li><li>顧客指定フォーマット</li><li>運用会社フォーマット</li></ul>                 | <b>3. 運用報告の目的</b> <ul style="list-style-type: none"><li>基本はPlan → Do → Check → Action</li></ul>  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ リスク分析結果</li><li>・ 超過リターン銘柄別寄与度</li></ul>                   |
| <b>2. 法定書面</b> <ul style="list-style-type: none"><li>金融商品取引法42条の7【運用報告書の交付】</li><li>金融商品取引法27条の24【株券保有状況通知書の作成及び交付】</li></ul> | <b>4. 運用報告の実際</b> <ul style="list-style-type: none"><li>報告のタイミング</li><li>運用報告書の構成例</li><li>四半期レポート</li><li>市況概況と投資行動</li><li>資産収益状況</li><li>リスク/リターンと要因分析等</li></ul> | <b>5. 投資顧問業務</b> <ul style="list-style-type: none"><li>様々なバリエーション</li><li>請求業務と運用会社の管理会計</li></ul> |

# インパクト投資 (インパクトファイナンス)の実務

注目講座

9/30水

Session 1	林 寿和	ニッセイアセットマネジメント	サステナブル投資	リサーチヘッド	専門部長
Session 2	須藤 奈応	Director, Impact Frontiers / Senior Advisor, Global Impact Investing Network			
Session 3	高塚 清佳	インパクト・キャピタル	代表取締役		
Session 4	清水 裕	カディラキャピタルマネジメント	取締役	チーフインベストメント	
Session 5	太田 洋子	野村証券	金融工学研究センター長	マネージング・ディレクター	
Session 6	橋爪 麻紀子	日本総合研究所	創発戦略センター	シニアマネジャー	
Session 7	小林 巧	かんぽ生命	運用企画部	責任投資推進室	課長
Session 8	小崎 亜依子	日本民間公益活動連携機構	出資事業部	部長	

国内外で急速に注目を集めるインパクト投資の「実践」を、第一線の実務家によるリレー講義形式で学ぶ講座です。金融庁の基本指針や官民連携の最新動向を踏まえ、ベンチャーキャピタル、上場株式、デットファイナンスにおける投資実務、アセットオーナーの取り組み、国際的な枠組みまで幅広く網羅します。インパクトの概念や市場動向、国際制度や枠組み、具体的な投資手法、企業価値との関係、アセットオーナーの運用実務など、実務に直結する知見を提供し、社会・環境課題と経済成長の両立に挑む最前線の投資を学べます。

## Session 1 インパクト投資総論

10:00 ~ 10:40 (40分)

1. インパクトとは	・ ESG投資との違い	4. インパクト投資実務のキーポイント
・ インパクトの概念	・ システムチェンジのための投資・システムレベルの投資	・ 投資家の貢献
・ インパクトの捉え方の違い		・ インパクト測定・管理 (IMM)
2. インパクト投資の定義・特徴	3. インパクト投資の市場動向	・ 投資対象はスタートアップから上場企業まで
・ 金融庁による基本的指針	・ 市場規模・資産クラス・担い手	

## Session 2 インパクト投資の国際動向及びIMM各種枠組み動向

10:45 ~ 11:25 (40分)

1. グローバルな市場動向	3. 最近のホットトピック
2. 国際的な枠組みと動向	4. Q&A

## Session 3 ベンチャーキャピタルにおける実践

11:30 ~ 12:10 (40分)

1. インパクト投資ファンドの特徴と設計	2. 投資実務	3. インパクトIPO
・ ファンド自体のインパクト測定・マネジメント	・ インパクトDDから始まる投資先のインパクト測定・マネジメント	・ IMMからResponsible Exitへ

## Session 4 上場株式における実践

12:15 ~ 12:55 (40分)

1. 上場市場におけるインパクト投資の位置付け	3. エンゲージメントを通じた投資家の貢献
2. インパクトを組込んだ投資判断	4. 投資先のインパクトについての計測と管理

## Session 5 インパクトと企業価値

14:00 ~ 14:40 (40分)

1. 統合思考に基づいた企業経営と情報開示	2. 投資家目線によるサステナビリティ情報の活用	3. インパクトと企業価値の関係
・ 持続的な価値創造実現のポイント	・ ESG開示情報と株価の関係	・ 株価に内包された社会・環境インパクトの定量化
・ サステナビリティ情報開示の潮流	・ 横比較可能なアウトカムラベル・カタログの作成	・ インパクトの可視化・定量化の課題

## Session 6 デットにおける実践

14:45 ~ 15:25 (40分)

1. デットにおけるインパクトファイナンスの現況	2. 主な論点・課題	3. 事例
・ 融資(業界構造・主な金融商品)	・ エンゲージメント	・ 直近の事例
・ 債券(業界構造・主な金融商品)	・ 運用体制・人材育成	・ 今後の動向

## Session 7 アセットオーナーにおける実践①

15:30 ~ 16:10 (40分)

1. 機関投資家としての生命保険会社	2. 生命保険会社のサステナブル投資/インパクト投資を推進する意義	3. 生命保険会社によるインパクト投資の実践
--------------------	-----------------------------------	------------------------

## Session 8 アセットオーナーにおける実践②

16:15 ~ 16:55 (40分)

1. インパクト投資における多様性とその意味	2. インパクトファーストの事例	3. JANPIA (日本民間公益活動連携機構) の実践するインパクト投資
------------------------	------------------	---------------------------------------

姉妹講座の  
ご案内

夏季日程：2026年5月27日～2026年7月1日

冬季日程：2026年10月後半～2026年11月

M&amp;Aと資金調達の実務を学ぶ

# インベストメント・バンキング講座

企業価値を向上させるための投資行動と財務手段である企業金融に関する実務。具体的には事業投資やM&A、株式・債券発行による資金調達等について幅広い範囲に亘って基礎から応用まで網羅的に学ぶことができる講座です。これらはどれも専門性高く学問的にも高度であるため、とっつきにくい分野ではありますが、長年の経験に裏打ちされたインベストメント・バンカーが自身の体験談を交えながら、わかりやすく説明しますので、キャリア浅めの方であっても、実務に即した深い理解を得られるのが特徴です。

講座名	講師	時間/受講料
<b>財務分析 — オリジナル・ケーススタディ</b> 財務戦略の前提知識となる財務諸表・財務指標分析など、財務会計の基礎を学習します。	内倉 栄三 元 ゴールドマン・サックス証券株式会社 投資調査部門/投資銀行部門	10:00～17:00 講義時間 6時間 53,900円(税込)
<b>事業投資基準</b> 企業価値評価を向上させる手段としての事業投資の位置付けを明確に把握します。	内倉 栄三 元 ゴールドマン・サックス証券株式会社 投資調査部門/投資銀行部門	13:00～17:00 講義時間 4時間 39,600円(税込)
<b>財務戦略の理論と実務 — オリジナル・ケーススタディ</b> 財務戦略に関する理論的な知識武装を目的とし、基本的な企業価値評価のフレームワークを学びます。	植木 務 元 J.P.モルガン証券株式会社 投資銀行本部 金融法人部共同責任者	10:00～17:00 講義時間 6時間 53,900円(税込)
<b>資金調達の実務 — オリジナル・ケーススタディ</b> 代表的な金融プロダクトである債券、株、CBが、どのように発行されているのか、商品ごとの特徴やポイントも踏まえて理解します。	三浦 毅司 元 クレディ・スイス証券株式会社 株式調査本部 株式調査部 ヴァイス・プレジデント 日本知財総合研究所 代表取締役CEO 早川 亮 元 ドイツ証券株式会社 株式資本市場部 ディレクター	10:00～17:00 講義時間 6時間 53,900円(税込)
<b>資本コスト — 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて —</b> 資本コストの「理論」と経営戦略やIRへの活用にかかる「実践」について、両面アプローチで解説します。	山手 剛人 プロフィックス株式会社代表取締役 (元 UBS証券株式会社 株式調査部)	13:00～17:00 講義時間 4時間 39,600円(税込)
<b>M&amp;A 戦略の構築と実務プロセス</b> ディールのキックオフからクロージングまでの流れを追いながら、現場で直面する様々な問題を取り上げます。	宮川 圭治 リンカーン・インターナショナル株式会社 シニア・アドバイザー (元 ドイツ証券株式会社 副会長 M&A部門責任者)	13:00～17:00 講義時間 4時間 39,600円(税込) <small>※投資銀行およびM&amp;Aアドバイザーの方のお申し込みはお断りしますのでご了承ください。</small>
<b>M&amp;A ストラクチャリングと契約実務 — クロスボーダーM&amp;Aを含めて</b> 国内、クロスボーダー案件のストラクチャリング、各種契約書のストラクチャーや考え方を学びます。	宮川 圭治 リンカーン・インターナショナル株式会社 シニア・アドバイザー (元 ドイツ証券株式会社 副会長 M&A部門責任者)	13:00～17:00 講義時間 4時間 39,600円(税込) <small>※投資銀行およびM&amp;Aアドバイザーの方のお申し込みはお断りしますのでご了承ください。</small>
<b>M&amp;A 企業評価(バリュエーション)の実務 — オリジナル・ケーススタディ</b> 感応度分析など、より実践的な手法を1つ1つ丁寧に紹介。DCFについてはエクセルによるデモを交えてわかりやすく解説します。	宮川 圭治 リンカーン・インターナショナル株式会社 シニア・アドバイザー (元 ドイツ証券株式会社 副会長 M&A部門責任者)	13:00～17:00 講義時間 4時間 39,600円(税込) <small>※投資銀行およびM&amp;Aアドバイザーの方のお申し込みはお断りしますのでご了承ください。</small>
<b>M&amp;A Go or Not Goの意思決定モデル — オリジナル・ケーススタディ</b> 成功に必要な条件、過去の失敗事例における原因の所在、成功事例の裏側についての基本理解が得られます。	服部 暢達 早稲田大学 大学院経営管理研究科 客員教授	13:00～17:00 講義時間 4時間 39,600円(税込)
<b>M&amp;A ファイナンス — オリジナル・ケーススタディ</b> 拡がりをみせるM&Aの資金調達方法について、数々の選択肢におけるメリット、デメリットを豊富な資料を元に把握していきます。	小泉 泰郎 株式会社FINC Technologies 取締役 元 ゴールドマン・サックス証券株式会社 投資銀行部門 資本市場本部共同本部長 兼 マネージング・ディレクター	13:00～17:00 講義時間 4時間 39,600円(税込)
<b>M&amp;A ポストマージャーインテグレーション — PMIの実践</b> M&A成功の鍵となるPMIについて、具体的な事例をもとに、実務の流れから課題への対処法までを体系的に解説します。	白石 良彰 プロフィックス株式会社 代表取締役 <small>※コンサルティングファームの方のお申し込みはお断りしますのでご了承ください。</small>	13:00～17:00 講義時間 4時間 39,600円(税込)
<b>ベンチャーファイナンス — オリジナル・ケーススタディ</b> ベンチャー企業の資金調達方法について、実例を用いて具体的に学びます。	小泉 泰郎 株式会社FINC Technologies 取締役 元 ゴールドマン・サックス証券株式会社 投資銀行部門 資本市場本部共同本部長 兼 マネージング・ディレクター	13:00～17:00 講義時間 4時間 39,600円(税込)
<b>エクイティ・ファイナンス — オリジナル・ケーススタディ</b> 価格決定にまで至る詳細が学べるのは本講座だけ。引受主幹事の思考ノウハウが身につきます。	早川 亮 元 ドイツ証券株式会社 株式資本市場部 ディレクター	10:00～13:00 講義時間 3時間 31,900円(税込)
<b>新規株式公開(IPO) — オリジナル・ケーススタディ</b> 体験談と完成度の高いケーススタディで、IPOのプロセスが実感を持って理解できます。	早川 亮 元 ドイツ証券株式会社 株式資本市場部 ディレクター	14:00～17:00 講義時間 3時間 31,900円(税込)

※ このご案内は2026年4月時点での予定です。日程、講師・内容等は都合により変更させていただく場合がございます。

# オンライン受講(ライブ配信)申し込み手順

お申し込みは日経ビジネススクールの

Webサイトから

🔍 ファンドマネジメント講座 🔍 検索



<https://school.nikkei.co.jp/special/fundmanage/>

- ▶ お申込み受付後、事務局から確認のメールをお送りします。
- ▶ お申し込み・ご入金について
  - 各講座指定の方法での入金をお願いいたします。
  - クレジットカード決済は、領収書の発行はできません。代わりにクレジットカード会社が発行する請求明細または申込完了メールおよびマイページの「決済履歴」からダウンロードできる「利用料お支払い明細書」をご利用ください。「利用料お支払い明細書」には、インボイス番号およびお支払金額が記載されています。これらの書面が、勤務先などで精算にご使用いただけるかは、お客様自身でご確認ください。
  - 法人宛の請求書でのお支払いをご希望の場合は、『講座の法人窓口』をご利用ください。  
講座の法人窓口：<https://school.nikkei.co.jp/hr/>

## お申し込みから受講までの流れ

- お申し込み後、講義開催の1営業日前に受講者用配布資料のダウンロード先を事務局からメールでご案内します。  
※講義によっては、配布資料がない場合、また事前には配布せず事後にダウンロードいただく場合もあります。
- 講義実施直前(あるいは当日)に、事務局からメールでZoomへのアクセス方法をお送りします。それに沿い、遅くとも講座開始の5分前には接続を開始し、通信状況を確認してください。通信状況を確認されましたら、必ずマイクをミュートにして講義開始までお待ちください。事前配布の資料は、講義開始までにダウンロードをお願いします。  
※1と2は同時にメールでご案内する場合があります。
- ライブ配信講義での講師への質問方法、および講師からの質問に対する反応(挙手など)については、Zoom機能の簡単な使い方とともに、講義開始前にZoom画面でご案内します。また、グループに分かれて意見交換などワークを行う場合があります。その際、Zoomの「ブレイクアウトルーム」を使い、少人数のグループに分かれていただき、各グループごとにワークを進めていただきます。なお、講義中に発言される場合は、ご自身でZoomのミュートを解除してお話ください。
- 講義終了後、事務局からメールにて、アンケートへのご協力をお願いについてご案内します。  
※ライブ配信の場合、通信状況やその他の理由により音声や映像が途切れる、画像や音声がかかる、つながらない、途中で回線が切れてしまうなどのトラブルが発生する可能性があります。あらかじめご承知おきください。  
※配信側の通信状況や不具合で接続が安定しない、回線が落ちてしまうなどの場合は、緊急でZoomの接続先を変更することがありますので、講義中は事務局からのメールを受信できるようにしておいてください。

## 注意事項・その他

### <禁止事項>

「日経ビジネススクール利用規約(個人)」記載の内容に加えて次の行為を禁止します。

- 本講座の録音・録画
- 資料の無断複製、第三者への提供
- 本講座のアクセス情報(IDとPW)の第三者との共有、使い回し

### <その他注意事項>

- 講座のお振り替えはお受けいたしかねます。
- 講義の内容や資料等の著作権については「著作権について」をご確認ください。

日経ビジネススクール利用規約(個人)：

<https://school.nikkei.co.jp/nn/info/tos.html>

著作権について：

<https://school.nikkei.co.jp/nn/info/copyright.html>

### 解約について

やむを得ず解約される場合は、受講開始日の3営業日前の15:00までに、運営事務局までご連絡ください。解約される場合は、返金手数料2,200円(税込み)をお支払いいただきます。お支払い済みの受講料から返金手数料を控除した金額をご指定の銀行口座に振り込む方法で返金いたします。それ以降の解約はお受けいたしかねます。

- 運営事務局の営業日は、土日祝、国民の休日、年末年始(12/27~1/4)を除く日となります。

お問い合わせは、こちらまで

Tel: 03-6812-8679

Email: [nikkei-bs@nex.nikkei.co.jp](mailto:nikkei-bs@nex.nikkei.co.jp)

日経ビジネススクール運営事務局  
株式会社日経イベント・プロ内

受付時間：営業日の9:30~17:30

<営業日> 土日祝、国民の休日、年末年始(12/27~1/4)を除く日

### ⚠️ 講座開催における個人情報の取り扱いについて

本講座の受講には「日経ビジネススクール利用規約(個人)」が適用されます。ご登録いただいた個人情報は日本経済新聞社および日経メディアマーケティングがそれぞれ直接取得し、それぞれのプライバシーポリシーに従って取り扱います。

- 日本経済新聞社：「日経IDプライバシーポリシー」及び「日経ビジネススクールにおける個人情報の取扱いについて」
- 日経メディアマーケティング：「個人情報保護について」

● 日経ビジネススクール利用規約(個人)：<https://school.nikkei.co.jp/nn/info/tos.html> ● 日経IDプライバシーポリシー：<https://www.nikkei.com/lounge/privacy/privacy.html> ● 日経ビジネススクールにおける個人情報の取扱いについて：<https://school.nikkei.co.jp/nn/info/privacy.html> ● 日経メディアマーケティング：個人情報保護について：<https://www.nikkeimm.co.jp/privacy/>